贈呈動物

贈　呈　動　物

外国文出版社
朝鮮・平壌
チュチェ99(2010)年

はじめに

朝鮮中央動物園は、首都 平壌（ピョンヤン）郊外の麗わしい大城（テソン）山麓にある。

50数年前、数匹のアナグマからスタートした動物園は今や、世界の5大陸に生息する珍しくも貴重な鳥獣を少なからず収容した動物園に大きく変貌した。

中央動物園には、金日成（キムイルソン）主席と金正日（キムジョンイル） 総書記に世界各国の大統領、政界･社会各界の高位人士、チュチェ思想の信奉者、あまたの動物学者、平凡な企業家、海外在住朝鮮同胞が贈呈した心こもる数多くの動物を飼育･管理している。

本書には、金日成主席と金正日総書記に世界各国から贈られた一部動物の贈呈経緯と生態学的特色、それに動物世界の生活様式の一端などが興味深く叙述され、ほかにも動物についての常識やエピソードなどが紹介されている。

目　次

朝鮮に渡ったゾウ …………………………………… 7
最初の贈呈動物―英雄ゾウ………………………………… 7
「婿入り」した雄ゾウ………………………………………… 8
英雄ゾウの「家庭」………………………………………… 9
陸生動物中最も大きいアフリカゾウ……………………… 11

民族的風習に従って贈呈された動物…………………… 14
シマウマ ……………………………………………………… 14
ダチョウ……………………………………………………… 17
アフリカスイギュウ………………………………………… 19

世界最大の自然動物園から
渡って来たチーター ………………………………………… 20

最長距離を旅行したキリン ………………………………… 23

イボイノシシ ………………………………………………… 26

ヤブイノシシ ………………………………………………… 27

特別な関心を持って用意された
ジャコウネコ ………………………………………………… 28

ソマリアから贈られた動物 ………………………………… 32
ロバ …………………………………………………………… 32
クリイロコブウシ …………………………………………… 35

ヤマアラシ……………………………………………… 36
アフリカニシキヘビ……………………………………… 37

マダガスカル島からやって来たサル ………………… 38
ワオキツネザル…………………………………………… 38
シロエリマキキツネザル………………………………… 40
クロキツネザル…………………………………………… 41

パキスタンから渡って来たライオン ………………… 43

動物学博士の心こもる贈呈動物 ……………………… 46

フィンランドから渡って来たシャモア……………… 48

長寿を願って贈られた動物 …………………………… 49
カメ………………………………………………………… 49
ケイプコブラ……………………………………………… 52
シカ………………………………………………………… 53

オウムあれこれ ………………………………………… 57

「森の人」—オランウータン ………………………… 62

タイからやって来た動物 ……………………………… 67
キュウカンチョウ………………………………………… 67
シロクジャク……………………………………………… 69
ワニ………………………………………………………… 71

一つの動物館を丸ごと………………………………… 74
コモンマーモセット……………………………………… 81

ピグミーマーモセット…………………………………83
スローロリス…………………………………………84
コモンリスザル………………………………………85
テッポウウオ…………………………………………87
ソードテール…………………………………………88
ミナミトビハゼ………………………………………90
コリドラス……………………………………………91
ネオンテトラ…………………………………………92
フグ ……………………………………………………93
エンゼルフィッシュ…………………………………93
ハリネズミ……………………………………………96
赤誠の贈り物オオヤマネコ …………………………98
カラカル ………………………………………………100
アライグマ ……………………………………………101
朝鮮で子を産んだチンパンジー ……………………102
特別機で飛来したサイ ………………………………106
いわれの深い白虎 ……………………………………110
つがいの軍馬 …………………………………………112
オオカミ ………………………………………………116
北極から来たキツネ …………………………………119

草原の清掃人ブチハイエナ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 122

歴史の最も古い動物園から贈られた
ゴシキカワラヒワ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 124

海外同胞の心こもるカナリア ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 127

日本から渡って来た動物 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 130
ハゴロモヅル‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 130
カンガルー‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 132
ジャガー ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 135
ハクチョウ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 136

朝鮮に渡った珍犬たち ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 138
シベリアハスキー‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 138
スパニエル‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 141
セント・バーナード‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 143
ヤマイヌ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 146

朝鮮の北と南に行き交ったイヌ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 149
豊山犬(プンサン) ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 149
珍島犬(チンド) ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 151

コラム

マンモスの再生は可能か?! ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 13
ネコがネズミを好物とするわけ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 31

パルチザンを助けた乳牛…………………………… 34
山林監視ザル ……………………………………… 42
主人を何度も訪ねて来たカメ……………………… 51
オウムも知的な会話が出来る……………………… 61
世界最大の類人猿—ゴリラ………………………… 66
生きている3億年前の魚…………………………… 95
チンパンジーの「へつらい」…………………… 105
文字を書くオランウータン……………………… 105
トラと朝鮮民族 ………………………………… 111
白馬の功 ………………………………………… 115
凶暴なドール …………………………………… 118
カンガルーという名の由来……………………… 134
「獒樹（オス）の犬」物語……………………… 140
主人の仇討ちをした軍犬………………………… 145

朝鮮に渡ったゾウ

最初の贈呈動物—英雄ゾウ

世界にはゾウの生息地が多く、数も少なくない。ゾウが戦争に利用されたのは数千年前からであるが、その間、政府から英雄称号を授かったゾウはただ１頭のみである。

ヴェトナムのこの英雄ゾウは、他の多くのゾウと共に、フランス帝国主義に抗するヴェトナム戦争に参加し、8年もの間、砲弾や軍用物資を大量に運び、戦争の勝利に大きく貢献した。熾烈を極めた戦いのさなかにも重い軍用物資を背中に載せて道なき山林を行き来し、敵機の襲来を避けて茂みの中にいちはやく隠れもした。

戦勝に尽くした手柄により、このゾウは政府から英雄称号を授かった。ホー･チミン主席は、この英雄ゾウを国の貴重な宝だとして、政府の特別の保護下におくようはからった。

この英雄ゾウはのちに、朝鮮中央動物園に居を移した。ホー･チミン主席が金日成主席に贈呈したのである。

かねてから金日成主席に敬慕の念を抱いていたホー･チミン主席は、金日成主席が人民のために朝鮮戦争後の困難な状況の中でも景勝の大城山麓に動物園を造成することにしたと聞き、直ちにゾウを贈ることにしたのであった。

ホー･チミン主席の意向で、ヴェトナムでは全国のゾウが１頭１頭検分された。主席は選ばれたゾウをわが目で確かめてみたが、気に入るゾウはいなかった。

いらだたしい思いに駆られていた主席は、ふと英雄ゾウのことに思いいたった。

こうして、ホー･チミン主席は、1959 年 8 月 12 日、ヴェトナムの英雄ゾウを金日成主席に贈ったのである。

「婿入り」した雄ゾウ

朝鮮に渡ったヴェトナムゾウの原種はインドゾウある。インドゾウの繁殖はたいへん難しいとされている。けれども、朝鮮に来た英雄ゾウは多くの子孫に恵まれ、今は 4 代に及ぶ孫子がいる。これは恐らく、この英雄ゾウがすぐれた「夫」に会えたからであろう。

そこには、実に深いいわれがこもっている。

雄ゾウ

英雄ゾウの到着後、中央動物園を訪れた金日成主席は、英雄ゾウの芸を見てたいそう喜び、ここに雄ゾウもいればいいのだが、と言った。

動物園では早速人をヴェトナムに送った。事情を知ったヴェトナムのファン･バンドン首相（当時）は、関係部門の幹部を集めた。この緊急会議では、金日成主席に贈る雄ゾウを選ぶ対策が講じられた。首相は、ハノイ動物園をはじめ各所のゾウを見て歩いたが、

満足すべきゾウを見付けることが出来なかった。そこで首相は、外貨を投じてでもラオスから雄ゾウを求めて来るよう指示した。しかし、ラオスでもすぐれた雄ゾウは見付からなかった。

報告を受けた首相は、全国をくまなく調査して雄ゾウを必ず見付けるよう、特別指示を下した。こうして、ある地方の農民が 10 年間大切に育てていたすぐれた雄ゾウが探し出され、日ならずして朝鮮の英雄ゾウに「婿入り」したのである。英雄ゾウの体重は 4t、雄ゾウのそれは 5t であった。

英雄ゾウの「家庭」

英雄ゾウは朝鮮に渡って来るとき、2 歳の子ゾウ（雌）を連れて来た。

朝鮮では、英雄ゾウの名を「栄光(ヨングァン)」、子ゾウの名を「牡丹(モラン)」と呼ぶことにした。英雄ゾウと結ばれた雄ゾウは、当時朝鮮に 1 頭しかいない雄ゾウだとして、「ハナ(一つ)」と名付けられた。

「牡丹」には 8 頭の孫子がいる。

金日成主席は、動物園を訪れた際、朝鮮に貴重な贈呈動物第 1 号を贈ったホー・チミン主席のことが忘れられず、贈呈ゾウ解説ボードを立派に作って付けるよう指示した。

1968 年 4 月 14 日、中央動物園を訪れた主席は、英雄ゾウの家族がまた増えたという報告を受け、ゾウは 18 歳以上になって子を産むといわれているが、この動物園のゾウは 10 歳になる前に子を産んだのだから、新記録を樹立したわけだと言った。

1982 年 4 月 4 日、再び中央動物園を訪れた金日成主席は、英雄ゾウの孫子たちが 1 列に並んで挨拶をし、鼻でお互いに握手する様子を見

インドゾウの「栄光」と「牡丹」

てたいそう喜んだ。

現在中央動物園には英雄ゾウの子孫である「火星（ファソン）」（雄）と「五月（オウォル）」（雄）がいる。

中央動物園の贈呈ゾウたちは、お辞儀はもとより、匍匐前進、頭にリボンのように付けた鼓を鼻で叩く芸、足首に付けた鉦を拍子よく鼻で叩く芸など、いろんな芸を巧みに行って見物人を喜ばせている。

陸生動物中最も大きいアフリカゾウ

陸生哺乳動物中最大のものは何か。

誰にでもすぐ思い付くのは、うちわのような耳を持つゾウである。その中でもアフリカゾウが一番大きい。それに最も長生きするのもゾウ（インドゾウの中には78歳まで生きたという記録がある。）であるから、ゾウこそ陸生哺乳動物中の押しも押されもせぬ「長老」である。

アフリカゾウの雄は、肩高が平均3.2ｍである。

アフリカゾウはインドゾウに比べて耳が特に大きく、背中の中程がくぼんでいる。耳介の大きさは、幅1ｍ、長さ1.68ｍにもなり、上衣の後ろえりよろしく背中を覆っている。体重は普通4～6t、大き

アフリカゾウ

いものは 12t にもなる。象牙は雌雄すべてのゾウにあり、長さ 3.4 〜 4 m、重さは最高 100 ㎏を超えるという。

ゾウは、早朝や夕方、または夜中に群れをなして水場へ行き、がやがやと声を立てながら 30 分ほど水を飲み、そのあと食べ物をあさりに行く。かなり乾燥した地に住むゾウは、川床の砂場に浅い井戸を掘り、自分たちだけでなく、その一帯の動物にも「生命水」を与えている。

水を深すゾウの行動はたいへん面白い。鼻と足で砂を掘り、水が湧き出るのを確かめると、そこを踏み固めて、水がたまるのを待つ。もし、思ったほど水がたまらないと、ほかへ移動していく。そういうわけで、アフリカにゾウが多いとはいえ、ゾウの生息地がどこそこだとはっきり指摘することは難しい。

アフリカ人はゾウに荷車を引かせたり、背に荷を載せて運ばせたりしているが、普通 2 頭で 2t ほどの荷を引くという。ヨーロッパの諸動物園では、アフリカゾウをならして曲芸をさせたり、子供たちを背中に乗せて歩かせたりしている。アフリカゾウはインドゾウより知能が高い。

ジンバブエのロバート･G･ムガベ大統領はアフリカゾウ「アフ」と「リカ」を金正日総書記に贈っている。

マンモスの再生は可能か？!

マンモスの名を知らない読者があるいはいるかも知れない。というのは、それが数十万年前に死滅した動物だからである。

ゾウ科に属するマンモスは、太古の昔、ヨーロッパとロシア北部の地帯に生息していたという。

地球上で絶滅したこのマンモスを蘇らせることが出来るであろうか。

今日、急速な発展を遂げる生命科学は、この問題に肯定的な回答を与える希望を生んでいる。

1977 年夏、シベリアのマガダン付近で、氷の中にとざされた、まるで眠っているかのような子マンモスの死体が発見された。

学者たちの調査によると、全身の組織が立派に保存されていて、血管も見え、そのなかにはいくらかの赤血球と白血球、血小板が残存していることも確認された。

このマンモスの蛋白質構造を調べて見ると、蛋白質アルブミンと血清アルブミンがインドゾウのそれと一致していた。このことは、マンモスがアフリカゾウよりもインドゾウに近いことを告げている。

学者たちは、マンモスの組織から生きている細胞を探し出して、インドゾウの卵子に結合させてみようとした。これに成功すればマンモスを蘇らせることになるのである。けれども、このマンモスから生きた細胞を見付けることは出来なかった。

翌年の 1978 年夏、ハタンガ川で雌マンモスの死体が発見された際、舌の組織をもって試験をしたが、これまた失敗した。

だが研究は続いている。研究に成功すれば、数十万年前まで北半球大陸に広く分布していたマンモスの再生が実現することになろう。

民族的風習に従って贈呈された動物

タンザニア人は古くから、自国の豊かな動物資源に誇りを抱いている。彼らには、自分たちが敬慕する偉人には、その力がきわみなく永遠であって欲しいという思いをこめて、動物を贈る風習がある。

シマウマ

タンザニア人の風習によって、シマウマをはじめ数十種の動物が遠くの大陸から朝鮮に渡って来た。

タンザニアのジュリアス・K・ニエレレ大統領(当時)から金日成主席に贈られたものである。

ニエレレ大統領は、朝鮮民主主義人民共和国創建20周年に際して朝鮮を訪問し、金日成主席に会った。大統領は、席上、自国の豊かな動物資源を誇り、アフリカの珍しい鳥獣を贈りたいと申し出た。

金日成主席を深く欽慕していたニエレレ大統領は、自民族の風習に従って、大統領就任後の最初の贈呈品として、主席に動物を贈ろうと思い立ったのである。

大統領は帰国後直ちに緊急会議を開き、贈呈準備チームを組んだ。こうして、自然動物園の珍しい動物を調査する活動が始まった。

大統領は、アフリカの動物の中から、特にタンザニア人が長年にわたって管理し、国の財宝として大事に保護している珍しい鳥獣を選ん

だ。そのうえ、自然状態で生きる動物の特性を鑑み，農業省動物局長が責任を持って、選ばれた鳥獣を半年あまり飼育･観察するようはからった。これほどまでしても何か行き届かない点があるように思えた大統領は朝鮮の動物専門家を招き、選抜済み鳥獣の検分を依頼した。このようにして贈呈動物の最終選抜が完了すると、担当者たちに、貴重な贈り物だから特別に注意して輸送するようこまごまと指示した。大統領の特別の関心のもと、体格の特異な大動物を運搬する特別製の檻が作られ、その間の鳥獣の飼育･管理も専門の技術者の手で行うよう措置が取られた。

ニエレレ大統領が金日成主席に贈った20余種の動物は、1969年6月9日、朝鮮中央動物園に到着した。そこには例のシマウマも加わっていた。

たいそう美しい動物だという金日成主席の称賛を得たシマウマは、白色の地に黒色の縞が規則正しくついている美しい体色とこれにふさわしいきゃしゃな体つき、その大きく柔和な目とも相まって、あたかも

シマウマ

羞恥心の強い娘のような印象を与える。

主席は長い年月が流れた後でも、動物園を訪れた際はいつも、ニエレレ大統領からアフリカの珍しい鳥獣を贈られたときのことを回顧しては、それらの動物をいちいち観察し、貴重な贈呈動物の飼育・管理に意を尽くし、繁殖に心がけるよう、教えたものである。

シマウマは南部アフリカに生息し、現在生存しているものは3種で、ほかに少数の亜種がある。体重は325 〜 375 ㎏である。

シマウマは普通10 〜 100頭程度の群れをなして生活するが、高齢の雄は群れから離れて寂しく暮らしている。

シマウマの縞は一見目に付き易いと思えようが、アフリカの原産地ではなかなか見付からないといわれている。縞が保護色の役割を果たしているからである。

シマウマが何よりも恐れるのはオオカミである。シマウマがオオカミから身を守る唯一の手段は、一目散に逃げることである。時速は64 ㎞だという。シマウマはオグロヌーと同じくライオンの餌食になる場合も多い。

シマウマは、少しでも早く危険を察知すべく、物音や臭気にたえず気を配る。

敵が接近したり、仲間同士でたたかうときは、後ろ足で蹴ったり、前足で殴ったりし、歯をむいて噛み付きもする。

夜になると、親ウマたちは子ウマを中に置き円陣を組んで休むが、その際、尻はすべて外側になるようにしている。こうすれば子ウマを守って、襲いかかる猛獣を後ろ足で蹴って追い払えるのである。

シマウマは性格が荒く、気が短いため、手なずけるのが困難である。そのためにアフリカの住民は昔からシマウマを馴らすようなことはせず、捕殺して肉を食べ、皮を利用するだけであった。

今日、シマウマには国際自然保護連盟によって保護対策が講じられており、生息国でも国家的な保護を受けている。

ダチョウ

タンザニアのニエレレ大統領(当時)とアリ・ハッサン・ムウィニ副大統領(当時)は、金日成主席に多くの珍しい動物を贈っているが、そこには、アフリカダチョウも含まれている。

空飛ぶ鳥に属するダチョウが徒競走の指折りの「ランナー」だと聞けば、はて、と首をひねる向きもいようが、これはまぎれもない事実である。

ダチョウは鳥類のうちで最も大きく、空は飛べないが、地上を時速60～70㎞で走り、スピードを上げると96㎞にも達する。獣のうちで一番速いヒョウが時速90～100㎞であるから、ダチョウは砂漠ばかりか、地上のすべての動物の中で1～2位を争う最優秀ランナーだと言えるのである。身長2～3m、体重は150㎏程である。

毒草以外の草は何でも食べる。卵は40日目に孵り、10か月後には体重が100㎏に達する。

卵の殻は固く、ひしゃくなどに利用されており、皮は水が漏らず丈夫で柔らかく、ワニ皮や牛皮よりはる

アフリカダチョウ

かに上質だという。そんなわけで、ダチョウは「羽毛のあるウシ」と呼ばれている。革は高級靴や革手袋、革服、かばんの製品に用いられ、需要が高い。また、羽毛は装飾用に用いるほか、静電現象が起きないので、精密機械の掃除用ブラシに使われもする。

頭に比べて目が大きく、8㎞余り先の物体を識別するという。

ダチョウはたいへんな臆病者である。2㎞も先から聞こえるラクダの足音にも恐れて逃げ出すほどで、いつもおびえている。動物園でも薄暗い禽舎にはなかなか入ろうとしない。

乾燥した砂漠でもラクダのように暑さとかわきによく耐えるので、アフリカではダチョウを「ラクダドリ」とも呼んでいる。

動物園などでは、雨が降り、雪が降っても、ダチョウは遊び場を離れようとしない。あるいは、砂漠で水不足に悩まされていたためだったのかも知れない。

ダチョウは身体のどの部位も捨てるところがなく、飼育も容易である。

現在知られている種類は6種だとされている。

エチオピアのマリアム大統領(当時)も、金日成主席にアフリカダチョウを贈っている。

アフリカスイギュウ

ニエレレ大統領は金日成主席に、アフリカスイギュウも贈呈した。

体重が 600 〜 900 kgに達するアフリカスイギュウはたけだけしい動物である。アフリカスイギュウを襲撃するのはライオンだけだというが､それも群れから離れた幼いスイギュウを狙うだけで､成育したスイギュウを襲うことはまずない。

1000 〜 2000 頭が群れて草原に棲み、海抜 3000 mほどの高地にも見られる。特色は､反芻時間が非常に長いことである。飲み込んだ食べ物を口に戻して噛み始めると、45 回から 79 回、最高 90 回も、まず左側の歯で、ついで右側の歯で噛む。

新生児の体重は 30 〜 40 kgである。

アフリカスイギュウ

世界最大の自然動物園から渡って来たチーター

アフリカには､興味深い動物世界をくりひろげる自然動物園が多い。

タンザニアには26の自然動物園がある。

最大のものはセレンゲチ国立公園とウンゴロンゴロ公園である。

この二つの自然動物園には､150万頭程のヤギュウ､20万頭余りのシマウマ、4600余頭のゾウ、7400余頭のスイギュウ、1500余頭のカバ、1万余匹の小型のシカ、4000余匹のハイエナ、2000余頭のライオン、800余頭のヒョウ､100余頭のサイ､23万余匹のレイヨウなど非常に多くの獣が生息している。

外国人観光客は毎年12万を数え､観光用自動車を乗り回して､珍しい動物世界を観覧している。

自然動物園の中程には観光ホテルがあり、ホテルの各所に据え付けられた双眼鏡で、動物世界を観覧する便宜もはかられている。

ホテル周辺の夜景は見ものである。

自然動物園の夜はぞっとするような恐ろしさに満ちているが、ホテルの周囲は明々と灯がともっている。この灯に照らされた範囲内には、老いたレイヨウやスイギュウが集まり、人間たちに見守られながらゆったりと夜を過ごし、朝「わが家」に戻って行くのである。

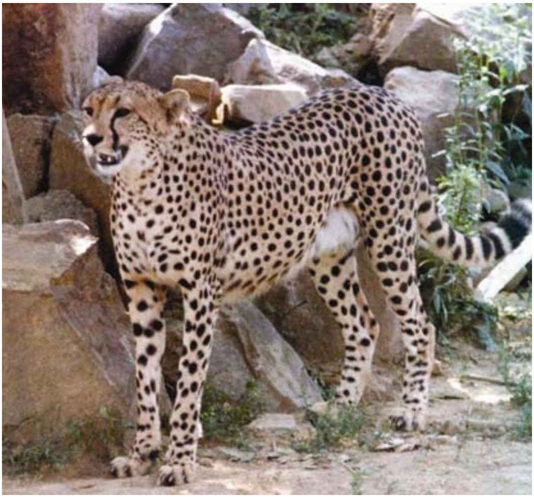
猛獣たちは､灯火のあるところには人間がいることを知っており､人間は恐ろしい存在だと見なしている。

このことを利用して、老いた動物はライオンのような猛獣の襲撃を

避け、無気味な夜を不安なく過ごそうと、人間のいるホテルのあたりにやって来るのである。

つまり、ホテルの周辺は老いた動物の居心地のよい「ねぐら」である。

果てしなく広がる草原を車で動物公園に向かう途上には、ヤシの樹林もあれば、かぐわしい香気を放つとりどりの草花が茂る草原もある。



チーター

緑したたる景勝の熱帯樹林は、文字通り動物の活動舞台である。

タンザニアのムウィニ副大統領は、金日成主席が動物園の充実に深い関心を向け、大動物園建設の構想を練っていることを知った。

1985 年 4 月、朝鮮を訪れて主席に会った副大統領は、世界最大の自然動物園を持つ自国が主席に珍しい動物を贈ることができたら、それにまさる喜びはないと考えた。

帰国した彼は直ちに外務省、内務省、資源･観光省の高位官僚を集め、タンザニア最大の自然動物園で金日成主席に贈る動物を収集する対策を講じた。

副大統領の深い関心のもとで組まれた 30 余名の優秀な動物技術者･狩猟家チームが自然動物園に向かい、ここでタンザニア猛獣のチーターをはじめ、小型レイヨウ、アフリカダチョウなど多くの動物が収集された。

他方、野生動物を動物園で飼い慣らすための研究がいろいろの角度で進められた。

副大統領はたびたび現場におもむいてはそれら動物の生活状態をいちいち確かめ、檻の製作にも心を配った。

こうして、1985 年 8 月 23 日、ムウィニ副大統領は至誠こもる、4 頭のチーターをはじめ 20 余頭の動物を主席に贈ったのである。

タンザニア人民の心からなる贈呈動物が到着したという報告を受けた金正日総書記は、贈呈動物舎を立派に建てるよう指示した。

ソマリア大統領も、1973 年 4 月 12 日、金日成主席にチーターを贈っている。

最長距離を旅行したキリン

ジンバブエには、自国の珍獣キリンを輸送時間 8 時間内外までの国にしか送らないという慣例がある。キリンが騒音にひどく神経を使い、長時間の旅行を我慢しきれないからである。

ところが、ムガベ大統領は、キリンを飛行機で 20 時間余りかかる朝鮮に無事送り届けたのである。

大統領がキリンの贈呈を決心したとき、当該機関の幹部たちは、あの遠い平壌までキリンを無事届けられるだろうかと危惧し、困惑もした。実際、神経質な 12 頭のキリンを空輸中、8 頭が飛行機の騒音に耐えきれずに死んだという前例さえあるのだから、朝鮮までの遠距離空輸はとてものことでは実現できそうにないのである。しかし大統領は、なんとしてもきっとキリンを朝鮮に届け、人民を特別に愛する金日成主席に喜んでいただこうという決心を翻さなかった。彼は、首都から 1500 ㎞も離れた自然動物園でキリンを収集するよう専門家に指示し、そのための狩猟チームを組んだ。狩猟チームは広大な自然動物園を馬にまたがって駆け回り、遠くにキリンを見つけるといちはやく接近し、投げ縄を使って捕らえた。彼らはこれら何頭ものキリンの中から、一番大きい見事なキリン 2 頭を選んだ。

ムガベ大統領は 2 頭のキリンを注意深く観察したあと、キリンの長距離輸送対策を綿密に立てた。飛行機の騒音から守るため、綿で栓をした耳穴を耳介を折って塞ぎ、その上を包帯で巻いた。また、飛行機の離着陸時や飛行中の動揺で大きなキリンが傷つくことのないよう、檻の内側に厚い毛布とベルトを丁寧にめぐらし、さらに喉のかわきをうる

おせるよう水壺をつるしてやることも忘れなかった。

　このようにして、ムガベ大統領の心こもるホシモンキリンとアミモンキリンが、1991 年 9 月 20 日、金日成主席のもとへ無事届けられた。

　タンザニアのニエレレ大統領とムウィニ副大統領もそれぞれ金日成主席にキリンを贈呈している。

　キリンの丈は極めて高く、4.5 ～ 6 mにものぼる。体重は、雌が 500 ～ 750 kg、雄は 980 kg程度である。

　視覚が非常に発達しており、赤色、黄色、草色、緋色、青色、黄緑色を見分ける。

　キリンはシカと同様に赤色を最も警戒する。胃が非常に発達していて、短時間で食べ物を消化吸収する。かわきに強く、水が近くにあれば飲むが、ないと 1 か月間でも飲まずに平気でいる。

ホシモンキリン

　キリンは泳ぐことを知らず、水中に入ったり、川を渡ったりするようなことはほとんどない。

　キリンの敵はライオンである。ライオンはキリンが水を飲む瞬間を狙う。目ざとく、耳も鋭いキリンが油断して水を飲んでいるとき、2 ～ 3 頭が協同して襲撃をかけるのである。

　キリンは時速 50 ㎞で走り、両足で地面を蹴って走るときの歩幅は 4 m にもなる。猛獣の襲撃を受けると、敵を足で蹴ったり、首を振って頭突きをくわせもする。雄同士がたたかい、

アミモンキリン

首の骨が折れ、死ぬようなこともある。

キリンは温和な動物ではあるが、必要と見れば自分からたたかいをいどむことさえある。子持ちのキリンはライオンに襲われると、足で蹴り上げるが、その力は強大で、打撃を受けたライオンはほとんどが骨を折るといわれている。

キリンは普通立ったままで眠るが、ときには座って眠ることもある。首を後ろに回し、頭は尻の上に乗せて眠るのである。数頭が一緒に眠るときは、尻を中心方向に向け、首は外に伸ばして振り回し、防御体制を整える。

キリンは声を上げるようなことがまずない。

一生の間に 5 ～ 6 頭の子を産むが、子は産まれると 20 秒程して呼吸を始め、そのあと立ち上がって親を探す。

キリンは刺激性の臭気や煙に極めて鋭敏で、とても嫌がる。

ホシモンキリンとアミモンキリンはともに、サハラ砂漠以南のアフリカに生息しており、寿命は 14 ～ 25 年である。

イボイノシシ

ジンバブエのムガベ大統領が金日成主席に贈った動物の中には、イボイノシシもいる。

アフリカの全地域に生息し、耳の下と上犬歯（牙）の後ろに大きないぼを持つ非常に珍しい動物で、強大な力を持ち、群れをなしても行動するので近接するのは容易でない。

イボイノシシ

イボイノシシの特色は、牙が特異なことである。雄の上の牙は 25 ～ 63cm まで伸び、雌のそれはやや短い。この強大な牙を持って生存を維持し、敵から身を守りもする。牙で土を掘り、木の根や芽、果実を探して食べ、ときには腐肉を食べもする。牙で巣を広げて体を隠すこともある。何かに驚いたり、危険を前にしたりすると、牙をむいて猛烈に立ち向かい、相手に打撃を与える。動物園では、その牙で頑丈なドアや舎内の備品を壊すようなこともある。

イボイノシシは、枯れ草の生い茂った草原に火がつき、燃え広がっても巣にじっとこもり、火が通り過ぎるまで出て来ようとしない。

イボイノシシは普通、雌雄が子を引き連れ、小さい群れをなして生息する。足は短いが、時速 45 ㎞のスピードで走る。そんなときは、しっぽをアンテナのように直立させるのが一つの特徴である。

飼養されるイボイノシシは、飼育人になついて他の人間と見分けるが、不意に驚かされたときは怒り毛(頭から肩のあたりまで生えている長毛）としっぽを逆立て、目をむく。ついで頭をやや下げ、耳を後ろに向けて立て、足を少し曲げてから突進に移るのである。こんなときは、イノシシの突進方向と直角に身を避けるべきである。

ヤブイノシシ

ヤブイノシシは、ムガベ大統領から金日成主席に贈られたものであ。

マダガスカルやガンビアなどの山林地帯に生息しており、生い茂った山林に棲んでいるとしてヤブイノシシと呼ばれている。目の前に 4cm ほどのいぼが突き出ており、上の牙は7.6cm、下の牙は16.5～19cm である。

眠るときは、雌と雄が仲よく並び、雄の方がいつも楽な位置を占める。餌も雄が先に口をつけ、残したものを雌が食べる。

ヤブイノシシ

ヤブイノシシの飼育で何よりも重要なことは湿度を落とさないことである。湿地に棲むヤブイノシシにとって、乾燥した生活環境は致命的である。寿命はおよそ 15 年である。

特別な関心を持って用意された
ジャコウネコ

金日成主席への贈呈動物の中には、エチオピアのメンギスト･ハイレ･マリアム大統領（当時）が特別の関心をもって準備したアフリカジャコウネコもいる。

1983年、自国人民を最も近しい友人として信頼し、私心なき援助の手を差しのべ、アフリカ大陸の平和を擁護する自分たちのたたかいに変わりなく固い連帯を表明していた金日成主席に親しく会って帰国した大統領は､主席の健康を念願して､国の貴重な保護動物であるジャコウネコを贈ろうと決心し、4月某日、党政治委員会を開いた。会議の案件は、金日成主席の誕生日を控えて贈呈動物の収集を急ぎ、有能な狩猟家と学生からなる贈り物準備委員会を組織する問題であった。

贈呈動物収集の全国的準備が進められていたある日、国内の珍しい動物を贈呈目録に書き込んでいた大統領は、原案の明細表にジャコウネコが欠落していることを知った。

ジャコウネコは長生不老薬とされる麝香類似のシベトンを分泌する貴重な動物である。

大統領は、関係者たちに切々と訴えた。

……私は、あれほど珍しく貴重なジャコウネコがわが国に生息していることを幸運に思っている。ジャコウネコが世界の人民の尊敬を受ける金日成主席の健康にいささかなりとも役立つならば、これにまさる幸福、喜びはない。……

マリアム大統領は、贈呈目録に、「ジャコウネコ10匹」と大きく書

き入れ、贈呈動物の狩猟では、シンシンウォーターバックやリクサイドリなどの珍しい動物を何匹、何羽などと限定することなく、最良の鳥獣を選んで収集するよう、特別命令を下した。

アフリカジャコウネコ

　狩猟に当たっては何かと困難な問題が持ち上がった。けれども狩猟チームは、金日成主席の誕生日の贈り物を遅滞することなく最上品を収集するように、という切々たる大統領の訴えを心に反芻しては気持ちを奮い立たせた。

　アフリカの珍しい鳥獣をほとんど収集して狩猟が終わると、大統領は早速現地におもむき、そこから40種150の鳥獣を念入りに選んだ。

　大統領の誠意はここにとどまらなかった。アフリカ大陸産の鳥獣がモスクワ経由で朝鮮に到着するまでには、かなり激しい気候の変動が予定されているからと、輸送機内にエアコンを装置して自らも同乗し、檻の中の温湿度を随時確かめ、異常があれば即時報告を受けるようにした。代表団の中には、贈呈動物の管理に手落ちのないよう、有能な動物専門家が加えられていた。

　金日成主席は、多数の珍しい鳥獣をみやげにして平壌を訪れたマリアム大統領を温かく迎え入れた。

　平壌滞在中、大統領は随員中の動物専門家から、朝鮮中央動物園でアフリカの珍しい動物をたくさん要求しているということを聞いた。

　大統領は帰国後再び緊急会議を開き、金日成主席を敬慕する全エチオピア人が贈り物の準備に力を尽くすよう具体的な措置を講じた。こ

のときも彼はエチオピア動物総局長に、ジャコウネコを贈り物からはずしてはならないと強調した。こうして、大統領の格別の関心のもと、ジャコウネコをはじめ、アフリカダチョウ、モモイロペリカンその他の珍しい動物が、1987年8月、特別輸送機で平壌に届けられた。

金日成主席は、エチオピアからやってくる贈呈動物のための近代的な動物舎を中央動物園内に別途に建て、その前で意義深い贈り物の伝達式をとりおこなうようはからった。

アフリカジャコウネコがそんなに珍しい貴重な動物だとされているのは、それから貴重なシベトンという麝香に似た分泌液が取れるからである。シベトンは麝香と類似の薬剤として、精神錯乱、鎮痛などに使用されており、一部の国では香料としても用いられている。

ジャコウネコのシベトンは、肛門と生殖口の中間にある香嚢から分泌される。香嚢は直径4～6cmでミカンの果肉2粒が合わさったような形をしており、中央にシベトンを分泌する小穴がある。

アフリカジャコウネコはヨーロッパやアフリカの諸国で飼われ、牧場ではシベトンを採取している。アフリカジャコウネコはシベトンのせいで乱獲され急激に減り始めているので、国際的な保護動物に指定され、原産地の国々では国家的な統制動物として保護されている。

マリ共和国大統領も金日成主席の誕生75周年に当たって、アフリカジャコウネコを贈呈している。

ネコがネズミを好物とするわけ

ネコがなぜネズミを捕食するかという疑問は昔から人々の興味を引いてきた。世界の多くの国や民族は、民話や神話、伝説などを通して、この疑問に自己流の解釈を下したものである。数百年間、科学者の関心はネコがネズミを食わないとなぜ夜の視力が衰え、喪失するに至るかという問題に向けられた。

ドイツ･ハイデルベルク大学の一生物学教授は数年間の研究後、世界の動物生理学界を困惑させていたこの謎を解いた。タウリンという物質が哺乳動物の夜の視力を高めることを発見したのである。

ところで、ネコは体内でタウリンを合成する能力がなく、したがって、長期間タウリン欠乏症にかかっていると、次第に夜の視力が衰えて喪失に至るのである。一方、ネズミは体内にある特殊物質の作用でタウリンを合成している。だからネコは常時ネズミを食っていると、タウリンを体内に蓄えて夜の視力を維持し別条なく活動できるのである。

この研究の成果はすぐさま眼科専門医の興味をそそった。

従来、医学界は一種の頑固性夜盲症の治療法を見出せず、腕をこまねいていたのであるが、この成果にヒントを得て、頑固性夜盲症もタウリンの欠乏に起因しているのではと思い、一部の患者にネズミ肉を食べさせてみた。精密な眼科生理検査を通して、これら患者の感光機能は強まり、夜の視力も高まったことが確認された。

ソマリアから贈られた動物

朝鮮訪問を終えて帰路についたソマリアのモハメド･シアド･バーレ大統領（当時）は深い思いにとらわれていた。

ソマリアの前途を思い描く大統領の脳裏には、アフリカ大陸で始めて首都モガディシオに「金日成図書館」を設け、そこで金日成主席の諸著作を学習していた日々のことが思い浮かんだ。

大統領は､独立後今日に至るまで､自分たちに積極的な支持と惜しみない援助を寄せ、ソマリア革命 3 周年を迎えてまたまた援助と深い配慮をめぐらしてくれた主席の厚情に報いるため、自分一個人のみならず全ソマリア人民の至誠がこもる意義深い贈り物をしなければ、という熱い思いに駆られた。

（ソマリアの珍しい最も貴重な動物を贈ろう……）

大統領は帰国後直ちに、主席に贈る珍しい動物を捕獲せよという特別指示を当該機関に下達した。こうして全国各地で数百頭の動物が収集された。

ロバ

バーレ大統領は収集された贈呈動物の目録に丹念に目を通し、そこにロバが含まれていないことを知ると、ロバを必ず捕らえるよう再び指示した。

ロバは肉が美味なうえ健康にもよいとされているので、ソマリアで

は国家的な保護を受ける動物の一つである。大統領の指示で、猟師たちは首都から遠く離れたロバの生息地に向かい、ここで寝起きしながら遂に見事なロバを捕獲した。

贈呈動物の選択が終わると、大統領は野生状態の動物を檻に入れて馴らすようはからった。

こうした格別の関心のもとで輸送前準備が完了すると、多数の動物が船で送られることを考慮して、大統領は獣医と飼育人各1名を同行させ、治療薬と飼料も十二分に用意するよう、細心の注意を払った。

このようにバーレ大統領は、金日成主席の誕生61周年を祝って、つがいのソマリアロバ2組を含む、15種の哺乳動物80頭と12種の鳥49羽、4種の爬虫類12匹を贈呈したのであった。

平壌市の牡丹峰(モランボン)劇場では、ソマリア人民の至誠こもる贈り物伝達式が盛大にとりおこなわれた。

以前、ロバの朝鮮名は「ナグィ」であった。

金日成主席は、ロバは天（ハヌル）を仰いで鳴く「ウシ(ソ)」だと言えるとして、名を改め「ハヌルソ」とするのがよかろう、と言った。それ以来朝鮮ではロバをハヌルソと呼んでいる。ロバは、前4000年頃から世界各地で家畜として飼養されるようになった。特にエジプトとメソポタミアの両地域では、前4000～前3000年にすでにロバを広く利用している。メソポタミアのある地方では、酋長が死

ロバ

パルチザンを助けた乳牛

第２次世界大戦中のある日、ドイツ軍の重要橋梁の破壊命令を受けたソ連パルチザン部隊は敵中に潜入した。しかし、ドイツ軍の厳重警戒下にある橋梁に近づくことは不可能と思われた。森林の中に潜んで橋梁をうかがう隊員たちの気はあせった。そんなとき、ひとりの隊員がドイツ軍兵営付近にある牛舎に数十頭の乳牛がいることに気づいた。

（乳牛に助太刀を頼もう）

ある妙案が浮かんだ彼は、驚く戦友たちを尻目にやぶを掻き分け牛舎に向かって走った。牛舎の近くでは腹ばいで進み、その一隅に身をひそめた。

ウシどもは目を見開いて闖入者を眺めた。しめたと思った彼は、ポケットから赤旗を取り出し、乳牛に向けて力一杯振った。一瞬、見知らぬ男をのんびりと眺めていたウシの群れが大騒ぎを起こした。赤旗を見るや魔法にでもかかったかのように柵を飛び越え、狂ったように四方八方に走り出したのである。

橋をめがけて走る乳牛の群れに驚いたドイツ軍守備兵は、大声を張り上げて止めようとしたが、無駄だった。一帯はたちまち修羅場と化した。混乱に乗じてパルチザン部隊は、猛烈な攻撃をかけた。やがてすさまじい轟音と共に橋は木っ端微塵に吹き飛んだ。

戦友たちは彼の奇抜なはかりごとにひどく感嘆した。

赤い色はウシの神経を刺激するので、闘牛士はウシを興奮させる目的で、赤い布を利用している。動物世界についての広い知識が、戦闘の勝利に役立ったのである。

ぬとロバを副葬したという。

家ロバはソマリア野生ロバを馴らして家畜化したものである。

ソマリアロバはエジプト、スーダンなどの砂漠ないし半砂漠地帯に生息しており、寿命は 40 ～ 50 年で、雌の方が雄より長生きする。新生児の体重は平均 16 ～ 18 kgである。雌は分娩後 7 ～ 18 日目に種付けが可能である。世界的に家ロバは 35 の品種がある。

金正日総書記は、中央動物園を訪れた際、バーレ大統領から贈られたロバを見て、ロバは身体の割りに耳が長いのが特徴だと評し、ロバとウマを交配してラバを産ませるとよかろう、と言った。こうして、雌ウマと雄ロバを交配して出来たラバが中央動物園にいる。

クリイロコブウシ

クリイロコブウシ

ソマリアのバーレ大統領から金日成主席に贈られた動物の中には、クリイロコブウシもいる。

コブウシは、背中の前方に大きなこぶのあるウシである。こぶは脂肪の固まったもので、これを除けば、ただのウシと非常に類似した種である。このこぶはウシを使役に使うとき、くびきを掛けることに利用される。こぶの形は生息地によって異なる。アフリカコブウシのこぶは短くて高い反面、アジアコブウシは長くて低い。

野生動物の「王国」ケニアのマサイ族はコブウシを多く飼養しているが、彼らは、野生動物を保護する狩猟禁止区域の草原でコブウシを飼い、定期的に血を抜いて飲むといわれている。

ヤマアラシ

1973年4月12日、バーレ大統領は金日成主席にヤマアラシも贈呈している。

ヤマアラシは、アフリカ、ヨーロッパ南部、東南アジアのスマトラ島、ジャワ島などに分布している。

体形はハリネズミに似て丸まるとして小さいが、丈夫である。背には太く固いとげが密生している。体長58～90㎝、体重は8～15㎏である。棲み家の穴にはふだん利用する出入り口のほかに、非常口が2～3ある。穴の長さは18ｍに達し、屋根の面積は6㎡、深さは1.5ｍにもなる。

嗅覚が鋭敏で敵が迫るとまず、尾を振って鳴き声を立て、足踏みをして相手に警告する。それでも去らないと、鋭い体毛を立てて不意に体を回し、後ろ向きに突進して相手を突き刺す。この攻撃法はヤマアラシの

特技で、とげに刺されると傷は致命的で、虎のような猛獣も肺や肝臓を刺されては苦しみもだえたあげく死んだ例さえある。穀物、果実、樹皮などを食うので農作物に被害を与える。

普通１回に１～４匹の子を産む。子は目を開けたまま生まれ、体には短いとげが生えている。

雌親の乳首は脇腹に付いているので、横にならなくても授乳が可能である。

肉は食用になり、とげは工芸品に用いる。

アフリカニシキヘビ

朝鮮中央動物園には、バーレ大統領から金日成主席に贈られたアフリカニシキヘビもいる。岩場に棲むのでイワオロチとも呼ばれており、アフリカに広く分布している。体長は3.5～4.5ｍ、最高7.5ｍに達し、胴が太い。このヘビは貴重な薬剤になる。

朝鮮中央動物園にはまた、スウェーデン・スカンセン水族館のヨナス館長から金正日総書記に贈られた、尾端から鈴のような音を出す奇妙なヘビもいる。ガラガラヘビまたはスズヘビともいわれるこのヘビは、尾の先に発音機関があって、尾を立てて左右にすばやく振ると、鈴のような音が出る。

スズヘビ

何かが自分に危害を加えよ

うとしたときにだけ音を出すことからして、それは飾り物でなく一種の防御手段だとみなされている。

マダガスカル島からやって来たサル

遠いアフリカの島国マダガスカルから金日成主席に種々のサルが贈られて来た。

アフリカ·インド洋側地域で真っ先に民族解放闘争を展開して独立を宣言した国は、美しい島国のマダガスカルである。

金日成主席は、マダガスカルのディディエ·ラチラカ大統領（当時）を反帝·自主のたたかいで、兄弟、戦友として信頼を寄せ、マダガスカル革命に私心のない援助と連帯を送った。とりわけ、大統領の子女が楽しい学期末休暇を朝鮮で送れるようはからい、その間彼らのための昼食会を催し、記念撮影も一緒にするなど、深い愛情を注いだばかりか、大統領の息女が朝鮮滞在中誕生日を迎えると知っては、誕生祝いのプレゼントまでしたのであった。

主席を敬慕してやまないラチラカ大統領は、自国と一家が受けた恩愛に僅かなりとも報いたいとして、心こもる贈り物をすることにした。

ワオキツネザル

金日成主席への贈り物にはまず、マダガスカル島の特産動物であるワオキツネザルが選ばれた。

マダガスカル人は、この非常に大きな愛嬌者のワオキツネザルを格

別に可愛がっている。

大統領は心こもるワオキツネザルを５度にわたり主席に贈呈した。

動物世界の「家族」関係は多様である。一生「父親」を知らずに過ごす家族もあれば、「夫婦」を中心に和気あいあいとした「一家」をなして暮らす動物もいる。

ワオキツネザルは、「祖母」を中心に一家をなして楽しく生きる特異な動物である。「祖母」の下で「娘」「孫」「孫娘」など数匹の雄と雌が互いにさすったり、なでたり、なめたりして仲良く暮らしている。

ワオキツネザルは集団を守り維持する本能が特に強い。喧嘩をするときもつねに家族の肩を持ち、他の集団と縄張り争いもする。ワオキツネザルの各集団はそれぞれ縄張りを持ち、前足と脇の間にある特殊な分泌腺から出される液をしっぽに塗ったり、木の枝になすりつけたりして、縄張りを表示する。この特殊な臭気をもって、長期間別れ別れになっていた「血肉」を見分けもするという。

しかし、幼い子ザルの場合は、事情がちょっと異なる。あるとき、中央動物園で、生後１か月ばかりの子ザルを母ザルから離して、クマの子、トラの子、他の草食動物などの中に２～３時間置いておき、そのあと、親ザルの元へ戻してみたら、母ザルはそれが自分の子でないとして、追い払ってしまった。

ワオキツネザル

ワオキツネザルは普

通、1 回に 1 ～ 2 匹の子を産む。子は産まれると本能的に母のおなかにとりつき、2 ～ 3 か月後からは背におぶさる。

ワオキツネザルの身体で特異な部位はしっぽである。長いしっぽは直立し、その先端部分はいったん下に垂れて再び上方にやや曲がって伸びている。その格好は軽快そのもので、歩く姿を引き立たせてもいる。しっぽのこの格好は健康のしるしでもある。健康を損うと、しっぽは力なく垂れ下がるのである。

現在、100 匹以上に増えたワオキツネザルの家族は、地方の動物園や公園、遊園地などに別れ別れになって棲み、外国の動物園に「分家」したものもいる。

ラチラカ大統領はその後も、主席の健康を願い、非常に美味なホロホロチョウと共に、シロエリマキキツネザルとクロキツネザルを収集して贈呈している。

1978 年 11 月 26 日、中央動物園を訪れた金日成主席は、ラチラカ大統領からキツネザルの生死いかんについての問い合わせをしばしば受けているとして、飼育上注意すべき点をこまごまと指摘した。

シロエリマキキツネザル

ラチラカ大統領は金日成主席にシロエリマキキツネザルも贈呈している。

このサルには首から胸にかけて襟巻きのような格好の長毛が生えている。新生児は他のサルのように背負わず、口でくわえて歩く。

キツネザル類の中では叫び声が一番大きく、やぶの中で聞くと恐ろしい怪物の咆哮かと思えるほどで、動物園の中でも犬のように

騒々しくほえていることが多いという。鋭い目をしていてたけだけしいように見えるが、性は温和である。

なでてやると喜び、飼育人にはうるさいほどじゃれつく。しかし、このサルには不意に人に襲いかかる習癖があるから注意が肝心である。

子育てはあまり上手ではない。

シロエリマキキツネザル

クロキツネザル

ラチラカ大統領は金日成主席にクロキツネザルも贈呈した。

このサルは団決力が強いことが特色である。

キツネザル類は深い森の樹上で生活しており、鼻の先が尖っていて、キツネに似ている。

両眼は顔の中央にやや寄っており、二つの物を同時に見ることができるという。

クロキツネザルは 10 ～ 15 匹が群れて暮らし、統率者は雌ザルである。力の強い雄は常に「隊伍」のしんがりに立っている。

このサルの集団には明確な縄張りがあり、他の群れが荒らそうとすると一斉に叫び声を上げてたたかう。ときには縄張りの境界まで出掛けて争うこともある。

縄張りを標識するため、樹木にしるしを付けたり、あちらこちらに糞尿をなすり付けたりする。

キツネザル類は現在マダガスカル島にのみ生息している。

山林監視ザル

山火事の起こり易い季節には、予防に多くの人手が必要であるが、その仕事が孤独で単調であるため、希望者は極めて少ない。

ある国の動物学者は、1 年程苦心した末、性が温和なコガネザル 4 匹を「山林監視員」に育て上げることに成功した。

山火事を監視するサルたちは、望楼に立って四方を見回し、どこかで煙が立ち、火災だと見ると、直ちに無線警報器のボタンを押すのである。

サルは忍耐強くないため、2 ～ 3 時間ごとに「監視勤務」を交代しなければならない。

パキスタンから渡って来た
ライオン

金日成主席の誕生64周年に際して、1976年5月21日、パキスタン・イスラム共和国のジュルフィカル・アリ・ブット首相（当時）が主席にインドライオン「夫婦」を贈呈した。

昔からパキスタンでは英知と勇猛、力のシンボルであるインドライオンを、最も偉大な人物に贈る風習がある。

つとに金日成主席への崇敬の念を抱いていたブット首相は、自国の風習に従ってインドライオンを主席に贈ることにし、最上のものを捕獲するようはからった。

狩猟チームは早速猛獣が最も多い西部山岳地帯の深い樹林の中で寝起きしながら数頭のライオンを収集した。

首相はその中から一番見事な雌雄2頭を選び、力が強く、勇猛なインドライオンの特色を考慮して、檻も固くて丈夫なカシの木で作った。

ライオンには、希望と飛躍の翼を広げて力強く前進する朝鮮に学ぼうとするパキスタン人民の心をこめて、雌は「希望（フィマン）」、雄は「翼（ナレ）」と名づけられた。

インドライオンの成育期間は3年である。成育した雄はたてがみを持ち、雌にはない。たてがみは肩の後方まで生え、胸とひざにも長毛がある。強靭な鋭い爪は、普通指の間に隠されており、敵とたたかうか獲物を捕るときには立てられる。

金日成主席は、他の動物と同様、「希望」と「翼」に関心を寄せていた。1978年9月30日、「希望」と「翼」の間に初の子が産まれた。

同年 11 月、中央動物園を訪れた主席は、ブット首相から贈られたライオンが子を産んだろうかと尋ねた。

「希望」は 1978 年から 1989 年まで 7 回子を産んだ。そのうち 9 頭は、地方の各動物園と外国の動物園へ送られた。

金日成主席の誕生 63 周年を迎えて、タンザニアのニエレレ大統領(当時)も主席にライオン「夫婦」の「セットル」と「プノク」を贈呈した。「プノク」は 1978 年 6 月 20 日の初産以来 1983 年まで多くの子を産んでおり、それらも地方の各動物園や外国の動物園に送られた。

1987 年 8 月 18 日、エチオピアの大統領も金日成主席にライオンを贈呈している。

ライオンはアフリカの広大な草原で普通数頭の雄と 5〜6 頭の雌、子ライオンなど 20 頭ほどが群れて生息している。まれには雄だけが数頭、あるいは雄の子だけが群れをなしている場合もある。

ライオンは幾つかの組を組んだり、2 頭が組をなして獲物を捕らえる。小動物はいうまでもなく、自分より体の大きいオグロヌーやシンシンウォーターバックなどのレイヨウ類やシマウマ、イボイノシシ、キリン、アフリカスイギュウ、ときには子ゾウも捕食する。

草むらに潜んでいて獲物が近づくのを待って急襲したり、2 組に分かれて、1 組は潜み、他の 1 組はそちらに向けて獲物を追い立てて捕殺したりする。追い立て役は大抵は雄で、獲物を捕らえるのは雌である。獲物を追うときの時速は 64 ㎞に達する。

ライオンは獲物をあやまたずに狙う。数百頭のレイヨウなど獲物の集団が目の前を通りかかると、潜んでいたライオンはその中の老弱な、あるいは病弱な対象を見分け、あくまでもそれを追って捕らえるのである。力の弱い動物は猛獣に発見されないようひどく気を使うという。ライオンは力が強く、100 ㎏を超える餌であってもくわえ

て引きずって行く。
　ライオンは泳ぎも上手で雌や子は樹上にもよく登る。ふだんは頭を下げてのそのそと歩くのも一つの特徴である。飼育されているライオンはおとなしいと言えるが、トラほどには人になつかない。ふだんは従順に見えても、不意に猛獣の本性を現わすことが多い。人の手で飼育された子ライオンは、生後 6 か月頃までは人なつっこく、温和であるが、母乳で育ったものは、3 か月ほどになるともう危険このうえない。怒れば爪を立てて、「ガオーッ」とうなり声を上げ、前足で地面を叩く。そのときの力は実に強大である。
　新生児は糞尿を排泄する能力がなく、授乳前ないし授乳後に、雌親から舌で肛門と生殖器のあたりをなめ刺激を与えられると排泄する。それに、この糞尿は親が食べてしまう。
　雌は平均 2 年に 1 度子を産む。寿命は 20 年内外である。

動物学博士の心こもる贈呈動物

ハンガリー･ブタペスト動物園のホラス･シャンドル園長は、1979 年 2 月 18 日、非常に珍しい動物ムフロン（ヒツジの原種）の一つがいとヒツジ 3 頭、アカハシコウノトリ 4 羽を金日成主席に贈呈した。

動物学博士である彼は、ヨーロッパの歴史の古い動物園を中心にして多くの研究を重ねていたある日､朝鮮の中央動物園のことを知った。

彼は金日成主席が人民にすぐれた動物園をと、心を砕いていることに大きな感動を覚え、動物学者として世界最高の偉人に棒げる最大の至誠は、珍しい動物を贈呈することである、金日成主席にいささかなりとも喜んでいただくために、科学の研究と観賞用に共に価値のある動物を贈呈したいと考え、国内の多くの牧場や動物研究所を巡って毛の生産性がよく、ヒツジの進化発展の研究にも大きく寄与できるムフロンと、毛皮と食肉の生産上研究価値の大きいヒツジなどの動物を贈り物として選んだ。ヒツジの先祖であるムフロンは、野生種ヒツジの中では最も小型で、イタリア西部のコルス島と地中海東部のキプロス島の岩場に生息している。

雌雄共に角があり、雄のそれは最高 1 mに達し、重さは 4 ～ 6 kgにもなる。

ムフロン

野生ムフロンの交尾期は毎年12月から翌年1月の寒い冬である。この頃になると、雄は角を武器にして、アカカンガルーと同様雌「獲得」の闘いをくりひろげる。

その中で一番強い雄が雌を独り占めする。

ムフロンは前6000年頃から家畜化されており、多くの国で、これと他の野生ヒツジとを交配して新品種を作っている。

ホラシュ・シャンドル園長から金日成主席に贈られたハンガリー産のヒツジは、角がいったん上に向かったあと横に長くねじれている種である。

雌の体重は40 ～ 50 kg、体毛の長さは35 ～ 40cm である。毛は5 ～ 6 月に1匹当たり平均5 kg程を刈り取り、繊維の原料とする。

また雌1匹当たり、年間40 ～ 60 kgの乳が得られる。

交尾は主として秋に行う。

ヒツジ

ザンビア自然動物園はレイヨウの種類と頭数において世界最多を誇っているが、そこには体重が900 kgに達するネジレヅノレイヨウやブラックバックもいる。

フィンランドから渡って来たシャモア

フィンランドのヘルシンキ・コルケアサリ動物園のイルカ・コイビスト園長とレイフ・ブロングビスト副園長は、1986 年 4 月 1 日、自分たちの動物園の名でヤギの一種であるシャモアをはじめ、多くの動物を金正日総書記に贈った。

シャモア

シャモアは体重 24 ～ 50 kgで、小型であるが極めて敏捷で岩に上がるのを好む。

雄は偏屈で、発情期を除いては雌と子をよく襲い、あげくの果てに子を角で突き殺す場合もあるという。

シャモアは国際的な保護動物で、皮はレンズの研摩、冬毛は洋服ブラシに利用されている。

長寿を願って贈られた動物

カメ

金日成主席の誕生80周年を祝って、1992年4月13日、中国吉林省延吉市に住む金鉄奎（キムチョルギュ）、黄貞子（ファンジョンジャ）夫妻が、その健康と長寿を願いミナミイシガメを贈呈した。

長寿は人々の念願であり、長生きするカメは長寿のシンボルとされている。

カメは300年近く生きるものとして広く知られているが、中国湖北省にはミナミイシガメと呼ばれる350～400年も生きるカメがいる。

このカメは、甲にアオゴケが人工的に培養されていて、これから貴重な薬剤が得られるため、驚くほど高価だという。金鉄奎、黄貞子夫妻は自宅でカメを養殖する動物業者である。母国朝鮮を訪れて国際親善展覧館を参観し、金日成主席を謁見する光栄に浴した一同胞から、金日成主席と金正日総書記の偉人像についての話を聞き、ひどく興奮して一睡もできなかった夫妻は、金日成主席に僅かなりとも自分たちの誠意を示したいと決心し、ミナミイシガメを贈ろうと語り合った。

ミナミイシガメ

ミナミイシガメは先祖代々受け継いできた彼らの

家宝であった。

　二人は、金日成主席の健康に役立つであろうこのカメが自分たちの家で飼っていたことを大変うれしく思い、誕生 80 周年を迎える主席に贈呈したのである。

　金日成主席の誕生80周年に際して、中国黒竜江省に住む崔英哲（チェヨンチョル）夫妻も主席にミナミイシガメを贈呈している。

　エチオピア共和国のマリアム大統領（当時）とソマリアのバーレ大統領(当時)も金日成主席にベルセオレガメとヒョウモンガメをそれぞれ贈呈している。

　ベルセオレガメはアフリカ西部に生息し、背の後部がいくらか折りたたまれるという意味で名づけられたカメである。

　甲の長さは 30cm 程で、その後部をたたんで後ろ足を隠し、敵から身を守るという。

ヒョウモンガメ

　ヒョウモンガメはアフリカに広く分布している。体重は20kg程度で、リクガメの中では大型に属する。

　長さ 50 ～ 80cm の甲は、体重の 30%を占め、固くて丈夫なので、100 kgの荷重にもよく耐え、また 1 ～ 2 か月餌を食べなくても平気なほど生命力が旺盛である。

　中央動物園には、1985 年 10 月 7 日、スウェーデン・スカンセン水族館のヨナス館長から金正日総書記に贈られたアカミミガメもいる。

　その名は耳介が赤色を帯びていることに由来している。甲の長さは

23 ～ 30cm である。

このカメは長寿補薬剤となり、観賞用としても価値がある。

アオウミガメ

1995 年 11 月 28 日、パキスタン統合参謀本部議長ファルーク・フェルズ・カーン空軍中将は、金正日総書記にパキスタン特産のアオウミガメを贈呈している。甲の長さ 1 m、体重 150 kgに達するこのカメは、水深 150 ～ 200 mまで潜るという。

カーン議長は総書記が休憩のひとときを楽しんで下さることを願って、魚槽で飼えるほどの子ガメも贈呈した。

アオウミガメは、餌を求め 1000 km以上泳いで行った後でも、間違い

主人を何度も訪ねて来たカメ

1947 年に 13 歳になるある中国少年が、飼っていた小ガメの甲に自分の名を刻み、川に放してやった。

カメはその後たびたび主人を訪ねて来た。

1972 年、8 回目に主人のもとへ帰ったとき、彼は武昌の橋の下で再びカメを放してやった。

カメは揚子江の激流を溯り 15 年間 300 kmもの距離を泳いで、1987 年、再び湖北省石首市のある村に住む主人のもとにやって来た。つまり、このカメは彼が 40 年前に初めて放してやってから 9 回にわたって主人を訪ねて帰って来たのである。

なく繁殖地に帰って来るという。

研究の結果によると、夜は星を、昼は太陽を見て方向を判断するので、海流に乗り餌を求めて遠くへ泳いで行っても、産卵期には繁殖地に帰って来られるのである。

ケイプコブラ

金日成主席の健康を願って贈られた動物の中にはケイプコブラもいる。

中国延辺三星貿易公司は、1993 年 8 月 25 日、祖国解放戦争（朝鮮戦争）勝利 40 周年を迎えて、金日成主席に不老長寿薬として知られているケイプコブラを贈呈した。

ケイプコブラは一名白蛇とも言う。

三星貿易公司の人々は、中国とヴェトナムの国境地帯にのみ生息するケイプコブラを捕らえるため、深い森林の中にテントを張って一冬を越し、苦労の末 5 月になって捕獲に成功した。

ケイプコブラ

彼らは心をこめて檻を作り、月桂冠を縁取った赤色の布地に献呈文を刺繍した。

献呈文には次のように書かれている。

「朝鮮人民の偉大な領袖金日成同志に捧げる贈り物『白蛇』

中国延辺三星貿易公司　1993 年 8 月 12 日」

ケイプコブラは虚弱を防ぎ諸種の疾病を治療するすぐれた薬剤ともなる。

コブラは、首の背面にめがね状の顕著な斑紋があるため、一名「メガネヘビ」とも言われる。

コブラは毒ヘビの一種で、アジアの南部とアフリカに分布している。体長は普通 1.2 m程であるが、最高 5 mものオオコブラもいる。

熱帯地方に生息するコブラは、危険を感じると、とぐろを巻き、頭を直立させる。すると頸部がずきん状に広がり、首の背面にめがねをかけた目のような斑紋が現われる。

これをぐるぐる回すと巨大な頭が目をギョロギョロさせて動くように見えるので、大きな獣も恐れをなして逃げ出すという。毒は神経を冒すので、咬まれると呼吸麻痺を起こし、15 分以内に死ぬこともある。昔、インドではコブラに咬まれて死ぬ人が年に最高 5 万名に達したという。アフリカコブラは、攻撃する際、敵の目に毒液を吐きかける。

一部の国ではヘビ使いが吹く笛の音に合わせて踊る「コブラ踊り」が人気を呼んでいる。見世物のコブラは毒牙を抜いたものである。

朝鮮中央動物園には、世界各国から渡って来た珍しいさまざまのヘビがいる。

シカ

人々は、彼らの生活と深いかかわりのある動物に愛情と念願、希望を託し、さまざまな名を付けて大事に飼っている。

雄の名は「健々（コンゴン）」、雌の名は「康々（カンガン）」、これらを合わせると「健康（コンガン）」

となる。

このつがいのシカは、中国共産党吉林省琿春県委員会及び琿春県人民政府から金正日総書記に贈られたものである。

昔から中国人は、シカを健康と幸福のシンボルとしてきた。

琿春県人民政府は、朝中友好の拡大発展に努めている総書記への感謝の気持ちを込めて、誕生日に健康の象徴であるシカを贈ることにし、琿春第1シカ牧場の千余匹の中から最上の優良種を選んで4か月前から特別に飼育したうえで、1985年2月、政府友好訪問団が朝鮮を訪れた際総書記に贈呈した。

訪朝団団長の吉林省琿春県人民政府の県長は伝達式場で、尊敬してやまない金正日総書記に祝福の挨拶を送ると共に、誕生日を迎える総書記に自分たちの念願をこめて命名したシカを贈る大きな光栄に浴することになったと感激に目をうるませて発言した。

シカの体重は90～130㎏に達する。

角は雄にだけあり、毎年4～5月頃に脱落し、また新しいものが生える。この生えたばかりの角は栄養物質が豊富で柔らかい。

盛んに生長する6～7月の若い袋角を鹿茸と言う。

7～8月になると角は成長を終えて血管が次第に固くなり、表皮は枯死して骨質となり、翌春自然に脱落する。十分成長した角の重さは2㎏にもなる。

春から夏にかけて角が生長しているとき、雄は塩分を含む地面を探して土をかじりもし、ときには海岸に現われて塩からい砂をなめもする。

シカの血や「鹿胎」「鹿尾」も補血強壮剤として用いられる。

シカは春と夏はばらばらになって生活し、交尾期の9～10月になると群棲する。

ハナシカ

シカの自衛手段は走ることだけである。

危険を感じたときの走行速度は70㎞/hに達する。

猛獣もシカを追いつめて捕らえることが難しいので、シカの通り道に待ち伏せ、不意に前から飛びかかって捕らえるのが普通である。シカは臆病な動物で、これに近づくときはそれとわかるよう合図を送るべきである。

さもないと尻毛を逆立て、しっぽを直立して一斉に走り出す。

シカは繁殖力が強く、新生児は8～9㎏に達する。

北東アジアの特産種であるシカは、夏は木陰が広がる地域で棲み、カシワ、アカシア、ヤナギ、カエデなどの葉を食べる。

冬は、枯れ葉や草根をほじくって食べたり、柔らかい木の枝や芽、表皮などを食べもする。

寿命は20年程である。

朝鮮中央動物園で「大家庭」をなすシカの群れは、見物人たちに喜びを与えている。

1979年10月31日、シンガポール・スンコ有限公司の社長から、非常に美しいハナシカが金日成主席に贈呈された。

ハナシカは、シンガポールで万年長寿と幸福の象徴とされている極めて珍しい動物で、インドなどアジア南部の一部地域に棲んでいる。

朝鮮のシカよりやや小型で、体長 1.35 m、体重は 45 ～ 65 kg である。

ハナシカにも角があるが、自衛の武器ではなく、敵に出合うと一目散に逃げるだけだという。

美しく、温和で、公園や庭園、遊園地で飼いもする。

オウムあれこれ

オウムは人語を真似ることが巧みで、非常に古くから人々に愛玩されている。オウムは上くちばしの先が鋭く下方に曲がった独特なくちばしに羽冠のあるオウムとセキセイインコとに分けられる。種類はめんどりほどの大きなものから、スズメのように小型のものまでたいへん多い。

それら多くのオウムの中には「金日成主義研究ガンビアグループ」の責任者サリウ･H･ジョンをはじめグループ全員が、1980年6月23日、主席に贈呈したネズミガシラハネナガインコとエリマキインコもいる。

ジョンは、ガンビアの首都バンジュールにあるクラプアイルランド中等技術学校の美術教員であった。長年教育事業に従事した彼は、金日成主席の『社会主義教育にかんするテーゼ』を読んで、その偉人像に感嘆し、熱烈なチュチェ思想の信奉者として、1979年、「金日成主義研究ガンビアグループ」を結成した。

オオホンセイインコ

彼は結成式で、金日成主席への敬慕の念で声を高ぶらせながら、自分の胸中には主席の名が星のように輝いていると語り、チュチェ思想の信

ネズミガシラハネナガインコ

奉者、宣伝者になることを誓った。

金日成主席を称える詩や歌詞を作り、主席の偉大さを広く宣伝していた彼は、ある日、グループ員たちと共に金日成主席に喜ばれる贈り物をしようと語リ合った末、ガンビア人民が最も愛する珍鳥のオウムを選んだ。

しかし、オウムを捕らえることは容易でない。

アフリカでもオウムはたいへん珍しいばかりでなく、国外への搬出も禁じられている。

そこで彼らは市当局に援助を要請した。市当局は快く要請を容れ、飼い慣らされたオウムよりも、草原に棲む野生の美しい怜悧なオウムを捕らえるべきだとして、農村住民に彼らを助けるよう指示した。

熱帯の猛暑の中でグループ員たちは、農民に助けられながら険しい山や深い森林を探し回り、数十羽のオウムを収集した。ジョンはその中から季節によって羽色が変わる、可愛いネズミガシラハネナガインコ一つがいとエリマキインコ一つがいを選んだ。

そして朝夕オウムと親しみ数か月間かかって「キムイルソンチュソク・コマッスムニダ(金日成主席有難うございます)」「チョソン・ガンビア・チンソン・マンセ(朝鮮ガンビア親善万歳)」という言葉を覚えさせたあと、金日成主席への敬慕の念をこめて、固くて変色しない樹木を選び、特別注文の鳥籠を用意した。

1982 年 4 月 13 日、朝鮮を訪れたジョンは、金日成主席を謁見した。

朝鮮中央動物園のオウム館には、セネガル朝鮮親善協会代表団が

金日成主席に贈呈したエリマキオウムをはじめいろんな種類のオウムがいる。

コンゴウインコは、オーストリア・トゥシ出版社社長兼「偉大な領袖金日成元帥チュチェ思想研究グループ」責任者のアントン・トゥシが、1979年7月18日、つがいのオマキザルと共に主席に贈呈したものである。

金日成主席への衷心がいつまでも変わらず金色に光り輝くという意味をこめてコンゴウインコを贈ることにした彼は、自ら贈り物準備委員会委員長になり、首都から30㎞程離れた自然動物園で、美しい色彩の混じったコンゴウインコを苦心惨憺して捕獲した。樹上に棲み、人が近づくといちはやく飛び立つオウムを捕獲するために、専門機関で特別に作った鳥網を利用したという。

コンゴウインコ

コンゴウインコは、オウムの中で最大種の一つである。体長は90cmで、その3分の2は尾である。体は黄色、青色、緋色、黒色、草色が入り混ざりダイアモンドのようにキラキラして美しく、根気よく教えれば、人語を巧みに真似る。それは、舌が特別に広くて大きく、自由に動かせる肉質からなっているからである。コンゴウインコは、オウムの中で欲の深い鳥だと言われている。果実のなった木を発見すると、くちばしで実をつついて種をついばみながらも、鳴き声一つ出さない。餌の存在を他の鳥に知られたくないからだという。

パキスタン･オリエンタル船舶会社のファザル･メスキン社長は、1983年9月9日、多くの珍しい鳥と共にセキセイインコを金日成主席に贈呈した。

パキスタンでは、セキセイインコとキンカチョウを幸福と繁栄のシンボルとしている。

セキセイインコは、体長20cm、体重35～40gで、オウムの中で一番小さい。

ヨウム

体は草色、青色、黄色、白色などでたいそう可愛い。

アフリカとオーストラリア南部に分布し、変種は40種にのぼるといわれ、家庭でも多く飼われている。

セキセイインコは、つがいで飼うと繁殖させ易い。それも仲がよくないといけない。お互いに気が合わないと、いつまでもよそよそしくしている。だから一つがいを鳥籠に入れても、注意深く観察する必要がある。そんなとき雌と雄が体を寄せて羽をなであったり、くちばしを合わせたりしていれば、仲が良いのであり、くちばしでつついたり、「キッキッ」と声を上げて喧嘩するようなときは、すぐに分けて、他の鳥と入れ換えなければならない。

雄がしきりに頭を上下に振って雌に近付き、自分のくちばしで餌を食べさせようとしていれば、それは、「求婚」のしぐさである。雌が嫌がらずに餌をもらって食べれば承諾したことを意味する。雌が卵を抱けば、雄はもっぱら餌を運んで来て口づけして食べさせるのが普通である。雌はつがって1週間後に5～7個の卵を産むが、1日おきに1個ずつ産むので、1回の産卵期間は10日程である。

雄は卵が孵ったあとも、餌を雌の口に入れてやり、雌はそれをまた柔らかくさせてひなに与える。

このようなオウムの中には、赤道ギニア共和国大統領が朝鮮民主主義人民共和国創建 40 周年を記念して金日成主席に贈呈したヨウムもいる。

金日成主席は、オウム類の中でも人語を一番上手に真似るこのオウムは、非常に珍しい鳥だとして、たくさん繁殖させるようにと言った。

オウムも知的な会話が出来る

オウムが人語を真似るということは古代から知られていた。ところが、オウムが単なる物真似ではなく、人間のように思考して話せることが最近確認された。

ある国の一博士は「アレックス」というハイイロインコを長年研究し、訓練をほどこして、23 種の品物の名と 6 種の色、5 種の形態、数種の材質を識別し、6 字を数えるよう教えた。このインコは、記憶した言葉を組み立てて 50 個以上を識別し、要求と拒絶の意思を表現するという。即ち、人間と知的会話が出来るのである。

このハイイロインコは自分にさわられることが嫌なときは「イヤ」だと言って拒絶し、「おまえにさわりたい」と言う前は、訓練を施す人もさわれないようにした。

このような行動は、オウムにチンパンジーと同じ程度の知的能力があり、よく教えれば、人間との意志の疎通がある程度可能であることを実証している。

「森の人」—オランウータン

インドネシアのスハルト大統領（当時）は、1979 年 10 月 29 日、朝鮮労働党創立 34 周年を迎えて、自国の非常に貴重なオランウータンのつがいを金日成主席に贈呈した。

どの国の誰にも自分の名で贈り物をしたことはなかったが、スハルト大統領は人民のための立派な動物園をと願う金日成主席の偉人的風格に感動して慣例を破ったのである。

彼は首都ジャカルタから遠く離れた、オランウータンの一番多いスラバヤ動物園に指示して、つがいのオランウータンを特別に育てるようにし、その後動物園におもむいてオランウータンの状態を観察するなど飼育に手落ちのないよう心を配った。

サル類は 5 つの部類に分けられているが、オランウータンは類人猿科に属する。類人猿の毛の色はほとんどが黒色であるが、オランウータンだけは長く疎らな赤茶色の毛で全身を覆われており、一名ショウジョウとも言う。

オランウータンは、「森の人」という意味のマレー語で、アフリカのゴリラにつぐ大きい類人猿である。

以前はアジア大陸の南部にも広く分布していたが、今はインドネシアの一部の地域に限られ、数が少ないため世界的な保護動物に指定されている。

インドネシアでは、スマトラやカリマンタン島にのみ生息するオランウータンをはじめ、珍しい自国の特産動物の国外搬出を厳しく統制している。オランウータンは身長 125 ～ 180cm、腕を広げると幅

が 2.4 mに達する。体重は雄が普通 75 〜 110 kg、雌は約 80 kgである。飼育をよくして太らせれば、雄は 204 kg、雌は 110 kgに達することもあるという。

樹上での生息に適応し、後ろ足は短く、前足は長くて膝のずっと下側まで届く。耳介は小さく、鼻は低く、鼻孔は大きい。オランウータンは深い森林の樹上に巣を作って家族単位で棲んでおり、まれに地上に降りると、直立して歩く。オランウータンは物真似がうまい。

物真似はサルの普遍的な特性で、これを利用してサルを捕獲する。

狩人たちがサルの棲む木立ちの近くで地面に網を敷き、大勢のサルが見下ろしている中で網の上にあぐらをかき、瓶の水を飲む。それから酒瓶をかたわらに立て、酔っぱらったように網の上に大の字になり、眠り込んだふりをする。

狩人の行動をじっと見ていたサルたちは、このときとばかりに木から降りて、瓶の酒を飲む。物真似ではじめたことだが、そのうまさにこらえきれずすっかり飲み干してしまい、本当に酔ったサルどもは、人間のように大の字になって正体なく眠り込む。狩人たちは待っていましたとばかりに起き上がり、サルどもを網の中にくるみこんで簡単に「逮捕」するのである。オランウータンは記憶力もすぐれている。

オランウータンの行動には、「森の人」にふさわしい行為が多い。

オランウータン

年老いたオランウータンは、若いサルのように芸を披露して人気を呼ぶ自信がないのか、鉄柵の前に尻を下ろして座り、見物人たちに向かってゆっくり拍手をした後、その手を差し出して食べ物をねだる。

見物人たちは面白がって食べ物を投げるが、サルのいるところまで届かないと、オランウータンはもどかしくていらいらし、歯をむき出して大きな手の甲でコンクリート床を腹立たしげに力いっぱい叩く。そして「ここまで投げろ！」とでも怒鳴るかのように奇妙な声を上げる。

オランウータンの意地の悪さは驚くほどである。雌雄が一つ檻に棲む仲の良い「夫婦」であっても、もし餌を雌に先に、あるいは雄より多く与えると大変なことになる。

雄が雌に襲いかからんばかりの勢いで床を大きな手で猛烈に叩く光景が現出するのである。すると雌は驚いて餌を雄に差し出すことになる。だから動物園で餌を与える場合は、常に雄を優先し、万事平穏な雰囲気の中で「食事」をとるよう気を配っている。

オランウータンは、新しい飼育人が来ると、じっと様子をうかがっていて、不意に飛びかかり、足をつかまえては噛みついて逃げ出すようなこともする。

体重が 30 kg程までのときは、なでてやりもして仲良くなれるが、もっと大きくなると、飼育人と力比べをしようとする。元来用心深く臆病で、初めのうちは飼育人も警戒して親しもうとしない。

眠るときは安全いかんを確認してはじめて横になる。

オランウータンは利口で、いろんな芸を披露して見物人を喜ばせている。鉄棒、ブランコ乗り、重量挙げ、逆立ち、自転車乗りなどと芸は多様である。

オランウータンは勝手気ままなところがあるため、芸を仕込むときは厳しくしないと、「要領」を覚えて動作をいいかげんにしようとする。だか

ら厳格にしつけてはじめて正確な動作が覚えられるようになるのである。

オランウータンの病気は人間の病気とほとんど同じで、はしかにもかかる。

寿命は約50年である。

金日成主席は中央動物園を訪れた際、オランウータンはスハルト大統領から贈られた動物だと回顧し、重量挙げをさせてみた後、自転車も上手に乗ると言った。

金正日総書記は、贈られてきたばかりのオランウータンの子が病気にかかり、何も食べようとせず死にかかったと知ったとき、オランウータンの好物である南方の果実を飛行機で運んで来て食べさせ、回復させた。

ある日、動物園を訪れた総書記は、変に気取って舎内を行ったり来たりしているオランウータンを見て、ふだんどんなものを食べさせているのかと尋ね、類人猿が生息地にいたときは南方の果実をたくさん食べたであろうから、ミカンやバナナをやってはどうかと言った。

オランウータンは、こうして与えられた餌につかみかかり、たちまちのうちに食べてしまい、ビールまで飲み干した。タバコに火をつけてやると、愛煙家よろしくスパスパと吸い、煙を鼻から出すのであった。

そんなしぐさを興味深く見ていた総書記は笑いながら、類人猿の顔はなんて不器量なんだろう、と言って笑い、類人猿を外に出しておけば見物人が喜ぶだろう、朝鮮にない動物は外国から買って来て人々に見せるとよい、帽子をかぶったり脱いだりして人間の真似をする東南アジア産のサルや、南米地域の小型のサル、曲芸をするイルカなども取り寄せておけば、勤労者や子供たちの人気を呼ぶだろう、今後外国へ行く代表団も帰国するときは、朝鮮にない珍しい動物を購入して来るようにするとよい、と言った。

オランウータンは朝鮮の気候風土に慣れて子まで産み、勤労者に楽しい憩いのひとときを与えている。

世界最大の類人猿—ゴリラ

ゴリラは、アフリカの熱帯山林に生息する体軀が最大の類人猿である。身長はおよそ２ｍ、体重は250㎏内外である。上半身がよく発達し、特に腕が長く力が強い。

こぶしで自分の胸を強く叩く癖があり、その音は２㎞先でも聞こえるほど大きいという。これは仲間たちに自分の位置を知らせたり、他の獣を威嚇したりするときの動作である。

ゴリラは極めて利口である。

夜は体格の大きい雄が、木の下で集団の安全をはかって見張りに立つ。

前足の力が非常に強く、ワニの口を両手で引き裂きさえするほどである。しかし、ゴリラは他の獣とはめったにたたかわず、人間を襲うようなこともまずない。しかし人間が恐れて逃げ出すと襲いかかる。

ゴリラは酒を好む。これを利用して、酒瓶を茂みの中に埋めておき、ゴリラが思う存分飲み、酔いつぶれて眠っているとき生け捕りにする。

タイからやって来た動物

キュウカンチョウ

動物の世界には、オウムのほかにもハッカやキュウカンチョウのように人語を上手に真似る鳥がいる。タイ王国グランド国際貿易商社のプラシト･ポタストン社長は、1979 年 7 月、これらの珍しい鳥を金日成主席に贈呈した。1978 年、朝鮮を訪問した際、中央動物園を訪れて、各国の国家首班や各界人士から金日成主席に贈られた貴重な動物を大きな関心をもって見て回った彼は、金日成主席への敬慕の念もだしがたく、自分も多くの動物を贈呈しようと決心して、帰国する前にタイ動物舎を設けてほしいと申し出た。彼は帰国後早速、家族や商社員、親友たちと相談して、幸福と繁栄のシンボルである珍しく美しい鳥を贈呈することにし、家族全員と商社員を含む贈り物準備グループを組んだ。彼らは、鳥が生息する谷や山々を歩き、大樹によじ登りもした。鳥を捕らえるのは並大抵のことでなかった。彼らは鳥の習性をいちいち研究し、1 羽 2 羽と収集していった。こうして捕らえた鳥は鳥籠に慣れさせるため自宅で飼い、飼育管理表を作成して生態学的

キュウカンチョウ

特性も観察した。

人語を上手に真似るハッカとキュウカンチョウには、「タイ･チョソン(朝鮮)･チンソン(親善)･タンギョル(団結)」という語をまず覚えさせ、いろんな芸も仕込んだ。

朝鮮中央動物園内にタイ舎が立派に建設されていた 1979 年 7 月 12 日､彼はハッカやキュウカンチョウなど12種21羽の鳥を持って朝鮮を訪れ、金日成主席の安寧を願う家族と親友、グランド国際貿易商社員たちの心こもる贈り物を伝達した。

金日成主席は､贈呈動物の到着報告を受けると､タイからの贈り物をすべて中央動物園で大事に飼育するよう指示した｡動物園を訪ねたポタストン社長は、飼育人たちにそれらの鳥の飼育経験を詳しく教えた。

キュウカンチョウはムクドリほどの大きさで、羽の色は赤紫色につやのある黒色が混じったものである。翼の一部は白色である。

人語を真似るからといって、これらの鳥が人間が話す言葉をすべて真似るわけではない。それはあくまでも餌に対する一種の条件反射の結果であって、餌を与えられるといい気分になって人語を真似るのである｡このほかにも中央動物園のタイ舎には､いろんな珍しい鳥が飼われている。

シロクジャク

タイ王国のグランド国際貿易商社プラシト·ポタストン社長は、1981年3月26日、金正日総書記に4羽のシロクジャクを贈呈した。

以前朝鮮を訪れて金日成主席に珍しい動物を贈っていた彼は、その後朝鮮労働党第6回大会を傍聴し、そこで金正日総書記を敬慕する朝鮮人民の火のような熱情を目撃した。

帰国した彼は、偉人を仰ぐ清い心をこめて貴重な客にのみ贈るシロクジャクを求めることにした。

タイでは、クジャクを長寿と幸福のシンボルとして大事にしている。彼は首都の動物園で数つがいのシロクジャクを譲り受け、何か月もの間飼育観察した後、4羽を選び、贈り物の籠も自分の手でこしらえた。

シロクジャクはキジ科の鳥である。

クジャクはおよそ2000年前から飼育されており、その変種のシロクジャクは、紀元1500年頃に出現した。頭頂には、17～20の羽毛からなる羽冠が縦に扇状に付いている。

雄の長くて白い飾り羽は、クジャクのそれと同じような紋を持ち華麗で美しい。

ところで、残念なことに雌の方は茶色がかったぱっとしない羽毛を持つだけである。繁殖期

シロクジャク

ともなると、雄は雌の前で美しい羽を大きく開いて「舞」を舞いながら雌の気をひく。雄は普通の気持ちの良いときにも、そんな行動をする。

飾り羽は繁殖期が過ぎると抜け落ち、秋になるとまた生え始め、翌春にはきれいに出揃う。

繁殖期になると、雄が群れ集まり、飾り羽を開いて、われもわれもと踊るので、森の中が明るくなるという。

タイ王国のブンテン・トンサワディ下院議長(当時)もタイ王国とタイ人民の名で、1979 年 9 月 6 日、金日成主席にシロクジャクを贈呈している。

彼は訪朝を前にして、全人民にタイ特産の美しい鳥を収集して金日成主席に贈ろうと呼びかけ、自らも下院議員たちを伴って、鳥類が特に多い山の深くで数か月を過ごし、1 羽また 1 羽と収集していった。

ある商人はわが子と共に、険しい山々を渡り歩いてゴシキドリを捕らえ、ある労働者は自宅でシロハラクイナを心をこめて育てた。

また、ある著名な動物学博士はクジャクを変異させてシロクジャクを作り出した。

タイ人民の至誠こもるこれらのシロクジャクと 4 羽のゴシキドリ、2 羽のヤイロドリ、14 羽のゴイサギ、4 羽のセイケイなど多くの贈り物をもってトンサワディ議長は、「タイ王国親善促進代表団」団長として朝鮮を訪れ、朝鮮民主主義人民共和国創建 31 周年を慶祝して、金日成主席に直接それらを贈呈し、主席と並んで記念写真を撮る光栄に浴した。

ワニ

タイには最も尊敬する人物にワニを贈り物とする習慣がある。

タイ王国グランド国際貿易商社のポタストン社長は、1979年9月6日、金日成主席にシャムワニを贈呈した。彼は爬虫類専門家の助力を得て、ワニを捕らえるために川岸で何日も過ごし、捕らえたワニを庭園に作った淡水池で飼い、餌や温湿度などの習性を観察してグラフに書き入れるなどしながら人工飼育に馴らしていった。

このような誠意を尽くしたシャムワニが金日成主席に贈られたのである。

シャムワニ

ワニは地球上に現存する爬虫類のうちで最も大きく、発達した獰猛な動物で、ヨーロッパを除く全大陸に分布している。

ワニには、ワニドリという親しい「友」がいる。

ワニは日の出と共に水中から川岸に這い上がり、口を大きく開けて、日光浴をする。そこへ、青色をしたカワセミ属の小さいワニドリが飛んで来て、ワニの口中に入り、歯に挟まった肉屑をついばむのである。獰猛なワニではあるが、口の中を掃除してくれるワニドリは決して噛み殺さず、むしろ喜んで迎えるという。シャムワニは、中国、タイ、インドネシアなどに生息する珍しい動物である。皮は上質で高級日用品の原料として珍重されている。ワニ革のバンドやかばん、剥製品など種々

の工芸品は、最も親しい人へのプレゼントとして喜ばれている。

朝鮮中央動物園には、世界の各国から贈られたいろいろなワニがいる。

ナイルワニは、ジンバブエのムガベ大統領から金正日総書記に贈呈されたものである。

ナイルワニはワニ類の中で最も大きく、体長は普通 4.8 m、体重は 100 kg程度にもなる。アフリカのナイル川、北アメリカのミシシッピー川に棲むワニの中には、体長が最高 10 mに達するものもあるという。

大統領から贈られたナイルワニは、モシ･オア･トニア大瀑布（旧名ビクトリア瀑布）付近のワニ養殖場で選ばれたものだという。

朝鮮中央動物園にはまた、中国浩目信用投資諮問有限公司の張早涼総経理が、2007 年 9 月 27 日、金正日総書記に贈呈したつがいのイリエワニもいる。

彼は、中国で事業上の関係で会ったある人から、金正日総書記が人民に楽しみを与え、彼らの情緒生活を高めるため、中央動物園に馬や愛玩犬など多くの動物を寄せているという話を聞き、自分も人民を愛する総書記に何か贈り物をしたいと思った。

いろいろと考えた末、彼は栄えある朝鮮労働党がいつまでも健闘するよう、昔から 100 年ほど生きる強健な動物として知られたイリエワニを贈ろうと決心した。

オーストラリアに渡った彼は動物専門家の助けを借りてイリエワニを入手し、中国の丹東まで無事に運んだ。このつがいのイリエワニは、それまで中央動物園にはなかったもので、爬虫類中最大の種である。

成長したイリエワニは長さ 6 ～ 7 m、最高 10 mであり、体重は 1t に達するという。

2008年8月20日、彼はワニガメを再び総書記に贈呈した。

世界的に絶滅の危機にある極めて珍しい動物であるワニガメをつがいで贈呈することを思い立ち、動物学の専門家を同伴しワニガメの生息地の南米に渡って入手したものである。

ワニガメはワニとよく似ているが、生来の怠け者で積極的に獲物を捕るようなことがなく、そっと川底に体を沈めていて、いつも口を大きく開けている。

桃色の舌を揺るがすとそれがまるで昆虫のように見える。

水中でのたたかいは好まないが、陸地では相手に猛烈に襲いかかって噛みつきもする。ワニガメは原産地で乱獲されたせいでほとんど絶滅状態にある。現在、世界の珍動物ランキングの第6位を占めており、世界野生動物保護リストに登録されている。

一つの動物館を丸ごと

朝鮮中央動物園には、スウェーデン・スカンセン水族館ヨナス・ワルストレム館長が金正日総書記に贈った動物館がある。

この動物館には、金正日総書記へのヨナス館長の熱い敬慕と無上の感謝の念がこもっている。

ヨナス館長は労働者家庭の出で、苦学によって動物学を学び動物世界の深い知識を習得した動物業者である。

彼の素朴な希望は死滅段階にあるいろいろな動物を繁殖させ、多くの人に見せることであった。

資金難で独自の動物園を営むことができなかった彼は、師の助けを借りて、スカンセン国立動物園内に小さな敷地を得て、水族館を建てたのである。

彼は、自分の抱負に理解を示し、水族館の紹介に努めてくれた女性記者を妻に迎えた。

彼ら夫妻は、自宅で動物を飼養研究し、アフリカ、ヨーロッパ、ラテンアメリカなどを巡り、珍しい動物を収集して繁殖させもした。

そうした中、ヨナス館長は出版物を通じて、有益な動物資源を国法によって保護増殖し、植物園と動物園を人民の憩いの場、科学知識普及センターとしている朝鮮について知った。

彼は人民の願望が実現している国、すべてを人民に奉仕させる国朝鮮に対するあこがれが抑えられなくなった。とりわけ朝鮮におけるそうした施策がすべて金日成主席の崇高な志を奉じる金正日総書記の指導によってなされていることを知り、興奮はいよいよ大きくなった。

（限りなく崇高な志に燃える方、高邁な風格をもって人民に愛を注ぐ方……、そんな偉大な方を知ることができたのはわが生涯のまたとない栄光だ。）

それ以来、朝鮮に深い関心を抱いて総書記の著作を熱心に学習し、また朝鮮の多くの出版物をも読んで、総書記の偉大さについてより深く理解することができたヨナス館長は、総書記に家族一同の名で挨拶を送ろうと思い立った。彼らは相談に相談を重ねた末、家族全員の最大の心こもる珍しい動物の中でも特別に大事に飼っているコモンマーモセット（小型サルの一種）をつがいで贈ることにした。

それは、南米大陸で苦労して捕らえて繁殖させている、宝のような動物であった。

1984年2月16日、ヨナス館長はサルの飼育に必要な飼料や高栄養飼料を入れた特製の箱を添えて、平壌にはせる自分たちの心がこもったつがいのコモンマーモセットを金正日総書記に贈った。

総書記は、中央動物園でヨナス館長から贈られたコモンマーモセットを2度も見て、朝鮮にはない珍しい動物だから、立派に飼育するよう強調し、今後の繁殖の見通しと保護管理についてねんごろに教えた。

このことを伝え聞いたヨナス館長は、コモンマーモセットが朝鮮中央動物園で産んだ子ザルの写真に見入りながら、世界にこんなめでたいことがまたとあろうか、一国の最高指導者が素朴な自分の贈り物を2度までご覧なさるなんて、実に感激の至りだと言って大喜びした。

自然を愛し、人民の幸せに尽くす金正日総書記にヨナス館長は、意義深い朝鮮労働党創立40周年に際し、総書記に一つの動物館を丸ごと贈ろうと決心した。

彼は、高い目標を立てて、まず自分の動物館の中の最良の状態にある珍しい哺乳類と魚類を選んで自分の手でじかに飼育・管理した。

ワタボウシタマリン

そればかりでなく、自分の動物館にないか不足している世界的に珍しい動物を外国巡りをして入手し、注意深く飼った。

珍しい動物や魚類を1匹1匹手に入れることはなまやさしいことでなかった。

スウェーデン人もめったに見ることのできない高価のミカサゴは、東南アジアで入手した。

動物館の運営に必要な大型濾過器、水泡除去器、特殊ガラスなどの品も購入し、スカンセン水族館に1台しかない酸素注入気も贈り物のリストに入れた。

1985年5月30日、ヨナス館長は贈呈動物館を最上のレベルで建てるため、家族を伴って朝鮮を訪れた。

金正日総書記の関心のもとで、中央動物園内の景勝の場に、贈呈動物館は立派に建てられていた。彼は今回も総書記に贈る珍しい動物を用意していた。

サル類の中で、最も小さいピグミーマーモセットと、白頭のワタボウシタマリン、夜間だけ活動する、目が特別に大きいヨザル、ハナグマ……。

ピグミーマーモセットは世界的に絶滅の危機に瀕した、非常に得が

たい種であるが、ラテンアメリカの生息地で捕らえて繁殖させたものである。

金正日総書記は、贈呈動物館建設の全過程を記録映画にして残すようはからった。

帰国したヨナス館長は、総書記に喜んでいただくためには、贈呈動物館を最上のレベルで建てるだけでなく、贈呈動物の生存条件を全うし、飼育の正常化をはからなくてはとして、飼育·管理その他の技術的問題に力添えするための動物専門家たちを朝鮮に送った。

1985 年 10 月、朝鮮中央動物園内に近代的な贈呈動物館が竣工した。

開館を前に、ヨナス館長は金正日総書記に贈る家族一同の心こもる贈り物をたずさえて、2 度目に平壌を訪れた。

彼は贈呈動物館の開館日まで毎日現場に出向いてエアコンや酸素注入機のスイッチの状態までチェックし、遠い北ヨーロッパの国から心をこめて再度運んで来た 20 余種の珍しい魚類と夜間動物、爬虫類などを自身の手で 1 匹 1 匹移し替え、それらの飼育法を詳しく説明した。

同月 18 日、中央動物園では金正日総書記に贈る贈呈動物館の開館式が盛大にとりおこなわれた。

その後、親善勲章と総書記からの記念品を受け取ったヨナス館長は、贈呈動物館をより立派に補完することで総書記にさらに大きく喜んでいただこうと決

ボア

心した。

金正日総書記は、ヨナス館長に記録映画『平壌を訪れたヨナス』を贈るようはからう一方､親しく贈呈動物館を視察し､自然界に生息する動物を実感するようなすぐれた動物館だとして満足を表し、ヨナス館長の誠意を称えた。

総書記は、ここには珍しい動物が多いと言い、きれいなネオンテトラ､美しいコモンマーモセット､目の大きいヨザル､長い体で餌食を巻いて食うボアなどの特徴を詳しく教えた。

金正日総書記の贈呈動物館視察の報に接したヨナス館長は、国家首班だけが恵まれるような無上の光栄を賜ったとしていたく感激し、総書記に心からなる敬意を表した。

彼は総書記の大いなる信頼に応えるため、再び多額の資金を投じて紫外線高熱灯などの諸設備と試薬、珍しい動物を贈呈した。

彼は､訪朝時に撮影したスライドフィルム 120 余カットを現像し親友や同業者に送って朝鮮を大々的に宣伝し、さらに、世界の人々が協力して地球上の自然を保護しなければならないとして､その模範を示している美しい国朝鮮の中央動物園を紹介する本を出版もした。

ここで彼は､金正日総書記から受けた恩情をはじめ､親切な朝鮮の人たちや朝鮮の美しさについて書いた。

その後彼は、贈呈動物館で動物が立派に飼育されているとして、金正日総書記に心からなる感謝の手紙を送った。

金日成主席の誕生 80 周年と金正日総書記の誕生日を迎えて､再び朝鮮を訪れたヨナス館長は、諸国から集めた動物のうち最もすばらしいものを贈呈し､帰国後､贈呈動物の飼育に参考となる魚類原色図鑑とビタミン類、魚類の治療薬などをさらに送った。

総書記は、その後、スカンセン水族館を訪問する朝鮮代表団に託して、ヨナス館長にリクガメ飼養技術資料とタンチョウヅルを送るなど、4度にわたって贈り物をした。

なおヨナス館長は、1987年10月21日、朝鮮民主主義人民共和国名誉博士称号を授与された。

翌年再び贈呈動物館を訪れた金正日総書記は、ヨナス館長が名誉博士称号を受けてたいへん感激しているという報告を受け、外国人としてそれほどまでの誠意を示す人はそう多くはないだろうと言って、彼を高く評価した。

金正日総書記に最初の動物を贈ったときから10年が経ったある日、ヨナス館長はスウェーデンを訪れた朝鮮代表団に会い、金日成主席を失った総書記の大きな悲しみをいささかなりともお慰めしたいという切なる心情をこめた手紙に添えて、珍しい魚類を再び贈呈した。

その後も、毎年、さまざまの種類の爬虫類を総書記に贈っていた彼はある日、総書記が多忙な先軍指導のさなかの2008年12月1日、中央動物園を視察したという次のような話を聞いた。

総書記は、動物園がその間大きな変貌を遂げた、先軍時代の記念碑的創造物として立派に拡大増築されたと高く評価し、動物園の従業員たちが年中野外で動物を飼育する苦労は大変なものだ、彼らのためには何を惜しむことがあろうかとして、恩情こもる贈り物をし、動物園には50～60種の魚類と白馬、ラバ、ケッティ（ロバの雌とウマの雄の交雑で作られた品種）、愛玩犬をもっと送ることにしようと言った。

この日、金正日総書記は、中央動物園には国内はもとより世界各国すべての動物がいなければならないとし、20数年前一つの動物館を丸

ごと贈ってくれたヨナス館長が、今もいろいろな動物を贈ってくれているとして、その至誠を感慨深く振り返った。

在スウェーデン朝鮮大使館の人たちからこの話を聞いたヨナス館長は、総書記の人民愛にいささかなりともより多く寄与したいと願い、急いで贈り物を用意し、帰国する朝鮮代表団を追って飛行場に駆けつけた。

彼はその次に贈呈動物をまた贈るとき、これに夫人との共著になるスウェーデンの 19 の動物園に関する本を添えた。

彼は本書の執筆に当たって、スウェーデン動物園協会傘下の 19 動物園の実態を現地で熱心に研究したという。

スウェーデンには南方のスコエから北方のラフランドに至るまで大小の動物園があり、毎年約 400 万人の見物人で賑わっているという。彼は本書に、巨大なゾウを飛行機で運送する方法、トラ舎の作り方、オットセイの遊び場の造成法など動物の飼育法や治療法についても詳しく叙述している。

また、スウェーデンの諸動物園では絶滅の恐れがある動物の増殖計画を実現するため今も積極的な努力が払われているとも書かれている。本書を読むと、ヨナス館長の豊富な経験と動物愛護精神がどのようなものかがよくわかるであろう。

彼はこれまで、17 回にわたってほぼ 150 種 1500 余匹の珍しい動物を総書記に贈呈している。

金正日総書記と結ばれた外国の一動物業者との特異な 20 数年にわたるえにし、誰もが「謎」と見なすこのえにしの根が果たして何であるため、そんなにも長い間変わりなく葉を青々と茂らせて来たのであろうか。

この謎の答えは、ヨナス館長も語ったように、金正日総書記への欣

慕の世界は果てしがないということにある。

総書記の人間的な魅力は、歳月の流れと共に、ますますまばゆく輝いた。

金正日総書記を慕い仰ぐのは、現代の正しい志向であると深く信じているがゆえに、その熱い偉人崇拝心は、きのうもきょうもあすも変わることなく、今一つの国際友好の物語としていついつまでも伝えられるであろう。

以下ヨナス館長から贈られた数多くの動物のうち、珍しいサル類と魚類の幾種かを紹介する。

コモンマーモセット

コモンマーモセットは、ネズミの大きさ程のサルで、つやのある耳飾りのような白毛が末広がりに生えていて、耳はその中に隠れている。

耳の白毛は生後20日めから生え出し、40日めには10㎜程になって真っすぐ立つ。90日もすると耳毛は後ろに倒れるように伸び、150日めには白い束となって耳介のまわりを覆う。

ふだんはおとなしいが、いきなり大声で驚かしたり、激しく揺すぶったりすると、驚いて狂乱状態になる。

怒りっぽく、「キーキー」と鳴いたり、ときにはちょっとしたことでも大げさに痛がったりする。

このサルの特色は、分泌物を樹木などそこかしこに塗りつけることである。

特にボスは木や物だけでなく、仲間の体や自分の体にも塗り、その他

のサルは、そんなに多く塗るようなことはしないことである。

この標識はサルたちに多くの情報を提供する。

たとえば､雌の性的興奮、仲間以外のサルや他の動物の縄張り内への出現など多くの情報が分泌物によって伝達されるのである。

コモンマーモセット

コモンマーモセットは交際では音声信号も利用する。怒りを現わしたり、喧嘩をしようとするときは、耳をつんざくような甲高い声を出し、ときには「キィッ、キィッ」と叫び立てることもある。

集団内の秩序は雌雄の両ボスによって維持される。ボスたちの命令法はさまざまである。

即ち、耳毛の束を水平に広げてじっとして動かさず、体毛を逆立て、眉毛を下げ、身体を弓形にこごめる、などである。

体を弓形にこごめるのは他のサルたちに強く服従を強いるときに行われる。

コモンマーモセットの危険信号は、尻を回してしっぽを上げ生殖器を見せることである。

出産の際は雄が手助けし､子が産まれると､その毛をきれいになめてから、おんぶして外へ出て来る。

雄が雌より年下で子ザルを育てた経験がない場合は、雌が何日間かおんぶして育てることもあるが、大抵は授乳時以外は雄が子の世話を

やいている。

コモンマーモセットは、アマゾン川の河口からブラジルの東北部にかけて分布している。生い茂った森林の樹上で生活し、虫や小鳥、その卵、木の実などを取って食べる。

寿命は 10 ～ 15 年である。

気は短いが、人間にはよくなれる。

顔立ちがよく整い、可愛いしぐさで遊ぶので、動物園で賞玩動物として多く飼われている。

ピグミーマーモセット

現在、地球上に生存しているサル類の中で、一番小さく最も珍しいサルはピグミーマーモセットである。

体長は 12 ～ 15cm、尾は 20 ～ 21cm で体長より長い。

このサルは、1823 年、ブラジルの西部で発見された。

体長が人間の指ほどの長さしかないので、ユビザルとも呼ばれている。

雨の多い熱帯林の樹上で家族ともども暮らしている。

気が短く、正面からじっと見つめると、頭毛を逆立て全身を震わせて怒る。

ピグミーマーモセット

人間からにらみつけられると、後ろ向きになって、尻毛を立てて振り返り相手をおどすように尻を左右に振る。

このサルは動物舎内の隅から隅まで歩き回りながら、何でもいじくっていたずらをする癖がある。

ふだんの動作はのろいが、危険が迫るとすばやく逃げ出し、枝の上で後ろ向きに歩くようなことをする天性の「曲芸師」でもある。

だから、舎内の照明施設が露出していたら、そこへ上がり、感電して墜落し傷つく恐れがある。

とりわけ指が傷つくと、いつまでもなめているので、傷口がふさがらず、指関節が抜け落ちるようなこともある。

雌雄が交わるときは、絹を裂くような、震えるような甲高い声を出したり、鳥のさえずるような声も出したりし、湾曲した鋭い爪でお互いに愛撫もする。

新生児はインゲンマメほどの大きさで、体重は普通 15g 程である。

このサルの敵は猛鳥やヘビである。

ユビザルは、主に果実や虫を取って食べる。

寿命は約 10 年である。身体が小さいうえ、ヒトに似た特徴が多いことで価値の大きい実験動物とされている。

現在、絶滅の恐れがあるので海外への搬出は特に制限されている。

スローロリス

体重が 0.5 ～ 1.5 kgの小さいサルがたいへんな力持ちだと聞かされたら首をかしげるであろう。

スローロリスと呼ばれる丸い体つきの小ザルがそれである。鼻柱は

スローロリス

白く、いつも何か困ったような顔つきをしている。

このサルの特色はたいへんなのろまで、1歩1歩用心深く歩いているが、餌を見つけたり、危険が迫るとたちまちすばしこくなることである。握力は大変なもので、何かをつかんでいるときは、大人二人がかりで引き離すのが難しいほどである。体の割りに物を特ち上げる力もまた非常に強い。

内気でおとなしいが、嫌なことをさせられると、「クークー」とうなったり、「キィーキィー」と声を張り上げ、首をさっと回して噛みつくようなこともする。

眠るときは身体をこごめ、頭を前足の間に入れる。

丸い大きな目のせいで、顔形はフクロウを思わせる。指先の構造が特異で、壁の角の隙間に指をかけて天井までするすると這い上がる。

雄は、他のサルとは違って、子ザルに無関心で、まれにおんぶすることはあってもいやいやするので長続きしない。

寿命は10年程である。

コモンリスザル

大動物から小動物に至るまで群棲する動物は、力の対決で勝利してボスの地位を獲得するのが普通であるが、コモンリスザルの世界では

コモンリスザル

闘いではなく「転がり試合」の勝者がボスに選ばれる。

体重はわずか1kg、体長30cm、尾の長さは37～47cmである。

目の輪郭はぼんやりとしてはっきりせず、鼻と口に黒いマスクをかけたような容貌のこのサルは、数十匹から100余匹の群れをなし、しばしば別れ別れになったり、また集まったりして生活している。ボスは成熟した雄である。

それらは、ときどき自分たちの地位を確認するため、地面の上に転がり、回転を最も長く続けた者がボスに「当選」する。

コモンリスザルはアマゾン川周辺に広く分布している。

パナマで観察したコモンリスザルの小集団は、2匹の成熟した雄と6匹の雄の子ザルからなっていたが、毎日2.5～4.2㎞の距離を行動し、睡眠は一定の場所またはその近くで取っていたという。

コモンリスザルはときには2本足で歩くこともあり、木の梢から空中に飛び上がって飛翔中の昆虫を捕って食べたりもする。

長いしっぽは体のバランスをとるのに役立っているが、物に巻き付くことはできない。

可愛いコモンリスザルは、休んでいるときしっぽを上げて背中に付け、また、仲間に会うと、口づけをして喜びを分かつ。

コモンリスザルはいろいろな音声信号で交際するが、その種類は26～52種にのぼるという。

「飯」を食うときは、人間の子供のようにやたらにこぼし、それをま

た拾って食べる癖があり、容器の水より流れる水を好む。

新生児は母ザルのおなかや背中に這い上がり、親はほぼ 40 分に 1 回授乳する。

子ザルは昼も夜も母ザルにつきまとい、背中の上で自由に這い回る。

コモンリスザルは小さくて可愛らしく、おとなしいため、愛玩用に飼われることが多いが群棲の習性が強く、1 匹だけを飼うととても寂しがり、よく死ぬといわれている。

近年は人工衛星の実験動物として多く利用されている。

テッポウウオ

テッポウウオは、1766 年に発見された世界的に有名かつ有益な観賞魚である。

現在、東南アジアとミクロネシアの淡水域に生息している。

体長は 10 ～ 15cm であるが、自然の環境下では 30cm ほどになる。

特色は「水鉄砲」で餌を撃ち落として食べることである。

テッポウウオ

空中や魚槽の壁にトンボ、チョウ、ハエ、カ、カゲロウなどの昆虫が近づくと、すばやく水玉を口から発射し、水面に撃ち落として食べる。

口蓋の正中線に、細長い溝が 1 本あって、そこに厚い舌を当てると、細長い管が作られる。

このとき急にえら蓋を閉じると、管から水が吹き出される。

その距離は平均1.2ｍ、成魚の場合は最高3ｍまでも噴出されるという。

テッポウウオは卵を1度に3000個余り産み、12時間で孵化する。

テッポウウオをたくさん飼うと、室内にはハエやカがいなくなる。

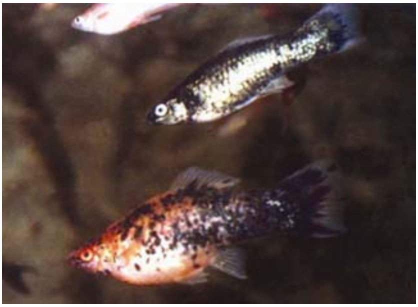
ソードテール

地球上には、生存中に雌が雄に変わる魔術師のような不思議な魚がいる。ソードテール(剣尾魚)がそれである。

ソードテールは、1840年に発見され、広く飼われている有名な観賞魚で、その後の長い飼育期間における品種改良を通していろいろの美しい色彩を持つものが作り出された。

ソードテール類には、ブラックソードテール、ブルーソードテール、イェローソードテール、レッドアイソードテールなどいろいろなものがある。

体長は、自然の環境下では8～12㎝、魚槽の中では7～10㎝である。



ソードテール

ソードテールのオスは尾びれの下部が剣のような形をしており、尻びれは生殖器官として、先のとがった細長い突起をなしている。

雄は生後2～3か月で尻びれが生殖突起に成長し、尾びれにも

「剣」ができて、雄としての様相をそなえ、4～5か月後には体のバランスが取れて見ばえがよく、繁殖用の適期を迎える。

ところで、子を何度も産んだ雌の尻びれは、うちわ状だったものが、にわかにすぼまって細長い生殖突起に変化し、尾びれの下部が剣状に長く伸びて雄に転換するものもある。

これを性転換雄というが、これも雄の務めを果たそうとして雌を追い回すのである。性転換雄は、2～3年間雌として過ごしたあとで雄に変わるので、体のかなり大きい割りに剣尾は短く、繁殖用としては好ましくない。

動物世界でこのような現象はごくまれである。

タツノオトシゴ（海馬）の場合は、雄の腹に袋があり、雌がここへ産卵すると、雄は卵に精液を振りかけ、受精卵はこの中で孵って、雄の腹から稚魚が1匹ずつ外へ出て来るのである。

ソードテール類は、性は温和だが気が短く、他種の観賞魚とよく争う。そのうえ、たちが悪く、エンゼルフィッシュ、パールグラーミ、ブラックテトラ、グッピー、金魚などのひげや尾を噛み切って食べる悪癖があるので、それらを同じ魚槽で飼うべきではない。

神経質なため、魚槽からバケツやたらいなど他の容器に移されると、いらいらして死ぬことが多い。

ミナミトビハゼ

水中はもとより、地上をも這い回る魚がいる。ミナミトビハゼと呼ばれるこの魚は、朝鮮西海沿岸に生息するトビハゼに似ている観賞魚で、南方の海域に産する。

胴体は丸いが下部が平らで横に倒れないようになっている。

目は頭上後方に突出しているため、ひどく恐ろしい感じがする。

筋肉質の丈夫な胸びれは、水中では櫓となり、地上では足となる。またガラス面や木に登るときはその吸盤によって体を物体にくっつける。

ミナミトビハゼ

トビハゼは補助呼吸器官が発達していて、水中よりも陸上で過ごす時間の方が長い。

体が水に濡れている間は、直射日光にさらされた乾いた砂の上や草むらを平気で這い回り、餌を取って食べ、木や岩の上に上がって四方を見回すようなこともする。雌が木の上であたりを監視している間、稚魚は砂場で楽しそうに遊びもする。

両眼は独自に前後左右に動き、片方の目が前方の餌を探したり、様子をうかがったりしているとき、他方の目は後ろや左右を見張りもする。

高く跳躍もし、その動作は敏捷である。

コリドラス

魚の世界にもブチハイエナに劣らない「清掃人」がいる。コリドラスと呼ばれるこの魚はたいへんな食いしん坊で、他の魚が食べ残した屑まできれいに食ってしまう。口は下方に向いており、口辺には３～４対の短いひげがある。このひげで砂や砂利などを掘り返し、そこに隠れているイトミミズなどまで全部食べてしまう。

胴体は丸くて、横筋の下側上部のうろこ板にきらきら光る固いうろこが 2 列に互い違いに並んでいる。

コリドラス

コリドラスの大きな特色はまた、胴体の下部が平らで横に倒れないようになっていることと、そこに小さな脂びれが一つあり、胴体が非常に大きいことである。

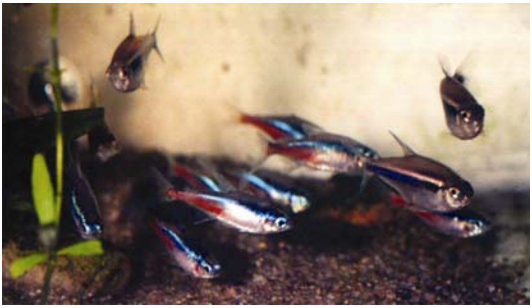
この魚は他の魚類を害することがなく、強力な防御手段が備わっているので、他の魚類から害を受けることもない。

コリドラスは主として水底に棲んでいて、砂や砂利の下に隠れている餌を探して食い、ときどき急に真っすぐ水面に浮き上がっては呼吸をしたあと、再び水底にもぐる。

ネオンテトラ

熱帯の数多い魚類の中で「女王」の座を占めているのは、「女王魚」という別名で呼ばれるほど美しくスマートな観賞魚のネオンテトラであろう。

体長3～4.5cm、体高はかなり高く、体の中ほどを走る横筋は蛍光灯よりも濃い青色の光を放っている。目も同じく蛍光灯のように光り、背は黒く腹部は白い。ひれはすべてガラスのように透明で、見分けがよくつかない。



ネオンテトラ

ネオンテトラは魚槽の中でも群れをなして遊泳する習性がある。

産卵期に、魚槽内が暗すぎると眠ってばかりいて産卵をしようとしないので、観察を怠らず、紙をもって照明をほどよく調節しなければならない。

しかし産卵直後の卵と孵化後の稚魚は光を厭がるので注意すべきである。

フグ

動物の自衛法はまちまちである。体色や形態の変化、臭気の放出……。

クサフグ

フグは危険が迫ると空気あるいは水を吸い込んで腹部をボールのように膨らませ、餌ではないかのように見せかけて身を守る。

フグは海水魚であるが大河をさかのぼって淡水の中で棲みもする。

その美しさが珍重されて観賞用にもされている。

体にうろこはなく、卵巣と肝臓に毒があるため、食用にするときは、卵巣と肝臓を除き、よく洗うことである。

フグの歯は丈夫で、針金を噛み切るほどである。

晩春から初夏にかけて大河をさかのぼり、川底の砂や砂利の混ざったところにほぼ１万個の卵を産む。

エンゼルフィッシュ

エンゼルフィッシュは 1928 年以来観賞用に飼われ始めた美しい魚である。

エンゼルフィッシュ

体形は他の魚とはまるで異なっている。身体は下部が平たい円形で、背びれと尻びれは特異なほど長く伸び、腹びれはひげのように後方に長く垂れている。胸びれは透きとおっていてよく見えない。

ゆるゆると泳ぐ姿があたかも天女が舞い降りているようだとしてその名がある。

背びれと尾びれは驚くほど長く、天(あま)の羽衣を思わせるような美しさである。

長年の品種改良によっていろいろの種が作られている。

ナガオエンゼルフィッシュは、全部のひれが余りにも長すぎて速い動作を妨げ、餌を追うのものろのろして他の魚に横どりばかりされて飢え死にする恐れさえあるから、注意して飼うべきである。

ブラックエンゼルフィッシュは、ひれを含む全身が黒一色である。ブラックスカートエンゼルフィッシュは、後ろの黒色部がまるで黒色のスカートのようだとして付けられた名である。

キイロエンゼルフィッシュは、マダラエンゼルフィッシュの突然変異によって生まれたものである。稚魚は白みがかった黄色、即ち卵色をしているが、大きくなるにつれて濃さを増し、成熟すると濃黄色を帯びる。

エンゼルフィッシュの雄は繁殖期に入ると荒々しく戦闘的になり、他の魚が近寄って来ると遠くへ追い払って雌を守る。

それで、繁殖期には静かだった魚槽内が敵意に満ちた緊張した雰

囲気を呈するようになる。よく見ると、2匹が連れ合って魚槽の隅を占め、他の魚が近づくと遠くへ追い払うが、この場合、追っていくのは雄で、雌は場所を守っている。

このように雌雄は他の魚とたたかってお互いを守ることで交わりを結ぶのである。エンゼルフィッシュのつがいができたと知ったら、早速他の魚を別の魚槽に移してしまわなくてはならない。

産卵は主として朝か夕方に始まる。雌が頭を上に向け魚巣板に輸卵管を当ててゆっくり上がりながら卵を1列に産みつけたあと横にそれ

生きている3億年前の魚

シーラカンスは古生代（約3億年前）に出現して、次第に栄えて世界の各海域に分布したが､1億年ほど前から減少し始め､数千万年前に絶滅したとされていた魚で、一名ラティメリアとも言う。

体長1.5ｍ、体重は35～60㎏である。

ひれはすべて扇状であり、体色は青く金属光沢を呈する。

胸びれ、腹びれ、尾びれの形態には原始的な点が多い。ところが、この魚の1種が、1938年、アフリカの東部沿岸で捕獲され、「生きている化石」として世界的な話題となった。

さらにその後の1952年､アフリカ東側沿岸とマダガスカル島の間にあるコモロ諸島付近で２匹が、さらにその近くの数百ｍの深海で10余匹が網にかかり､世界に生存中の魚類の中で最も珍しい種として学界の関心を集めている。

シーラカンスは､陸生下等脊椎動物の先祖に近いものと考えられている。

ると、待っていた雄が雌と同じ動作をして精子をかけていく。
１度に最高1000個程を産卵するが、産卵後、親はその場から離れず卵が孵化するまで、胸びれであおいで水を替えてやる。卵に汚れがあると口で拭いてやり、魚巣板から落ちた卵は口にくわえて元通り板に戻してやる。死んだ卵は口で板の外へ落とす。
エンゼルフィッシュは卵が孵化するまで、雌親が水を替え、水温を保ち、病気の治療までする特殊な本能を特った観賞魚である。
親魚は環境が騒々しくなったり、何かにおびやかされたりすると、稚魚を食ってしまうので、気を許してはならない。
特別な環境の変化がなくても、雌雄の一方が怠けて稚魚の世話をやかなかったり、稚魚を独り占めしたりしようとすると、仲違いして争いを起こし、はては稚魚をみな食べてしまいもする。
以上のほかにも贈呈動物館には、メキシコの日の射さない洞窟で発見された生まれつき盲目の、嗅覚だけで餌を探すブラインドケーブフィッシュ、普通の魚と変わりない姿勢で泳ぎながら成長した末に、仰向いて泳ぐ背泳魚、繁殖期に体色が美しく変わるニジウオ、口に卵を入れて孵す口孵化魚など、珍奇な魚がたくさんいる。

ハリネズミ

スウェーデン・スカンセン水族館のヨナス館長が特別に入手して金正日総書記に贈呈した動物の中にはハリネズミとオナシハリネズミもいる。
ハリネズミというと、何者も手出し出来ない「天険の要害」を連想する。それは、背面が鋭利なとげのような体毛で覆われているからで

ある。それで猛犬でさえ、唇と舌が血まみれになるほど攻撃を加えながらも、結局は断念するのである。

ハリネズミはころころ転がりながらとげに枯れ葉や草を体一面に付けるので、茂みの中ではなかなか発見できない。

ハリネズミの今一つの自衛手段は、猛烈な悪臭を放つことである。

ハリネズミはマムシも捕食し、ドクチョウやゴミムシのような毒物を持ったり悪臭を放つ虫も捕って食べる。

他方、オナシハリネズミはハリネズミと同じ食虫類に属する小動物で、マダガスカルに多く生息し、砂漠の中の低木の茂みやコケの多いところを好む。体長は40㎝ほどである。

天敵から身を守る強力な手段はひどい悪臭を放つことであるが、これは雌雄が呼び合う場合にも使われる。雌は一晩に200㎡もの範囲に臭気の強い分泌物をなすりつけ、このにおいによって雄は雌をたやすく探し出すのである。

雌は1回に15～25匹の子を産む。乳首は29で、哺乳動物中最多である。

雌は子を守る本能がたいへん強く、死をも辞さずにたたかう。

子をみな産むと枯れ草で巣を作り、敷き草の下に子を入れて何者も手出しできないようその上に横たわって休んだり眠ったりする。それでも安心できないときは、隠蔽された巣の隅に子を集め、枯れ草を厚く掛けた上に寝そべる。

赤誠の贈り物オオヤマネコ

スウェーデン・スコネ動物園のスタファン・オケブィ園長とエルブ動物園のウレ・ラーソン園長から共同で金正日総書記に一つがいのオオヤマネコが贈呈された。

動物の世界では「近親結婚」はありふれた現象である。

ところで、このオオヤマネコ「夫婦」は、一国の北方と南方からやって来て縁を結んだのである。

二人は、金正日総書記に動物館を丸ごと贈呈して世界の動物学者の評判になったスウェーデン・スカンセン水族館のヨナス館長から、総書記の人民的な風格と仁徳政治についていろいろと聞き、また、1999年秋、スウェーデンを訪問した朝鮮中央動物園代表団を自分たちの動物園に迎えた際、総書記についてより深く、詳しく知り、両者が協力して贈り物をしようと話し合ったのであった。

スウェーデンは、北欧のスカンディナビア半島東部を占め、国土の15パーセントが北極圏内にあるため、1年の半ばが北極の夜で、気温も周辺の他の国より低い。国の北端の地方は、12月初旬から翌年1月10日頃まで太陽が昇らず、5月末から53日間は白夜が続く。

スコネ動物園は国の北方に、エルブ動物園は南方に位置している。

二人は、互いに遠く離れていながらも、総書記への敬慕の念を贈り物にどうこめるべきかとたびたび相談した末、次のような結論を得た。

これまで誰にも贈ったことのないオオヤマネコを選び、それも近親繁殖を避け、すぐれた子孫を産ませようという願いをこめ、南と北

オオヤマネコ

の遠くで別々に棲んでいる雌雄を「結婚」させて朝鮮に送ろう、と。

こうして、つがいのオオヤマネコが、2001年12月29日、金正日総書記のもとに届けられたのである。

オオヤマネコは、ネコ科に属する猛獣の1種である。世界にオオヤマネコは3種ある。スウェーデンから贈られたオオヤマネコは、朝鮮を含む北アジアとヨーロッパに分布している種で、体長80～100㎝、体重は30㎏未満。

体毛は黄褐色あるいは淡褐色の地に濃い黒褐色の斑点がまばらにつき、ふさふさして柔らかい。

主に夜活動し、一夜に40㎞以上を駆けてリス、ウサギ、シカ、ノロなどを捕食する。

深い雪の中でもよく走り、木登りや泳ぎもうまい。

性質が荒くたたかいも好むが、強敵が現われると生い茂った木の枝の間や洞穴の中にひそみ、森林を遠く離れるようなことはない。

寿命は10～15年である。

カラカル

ジンバブエのムカベ大統領は、金日成主席にカラカルも贈呈している。

カラカルは、オオヤマネコに似ているが、耳介の先端に黒毛の束があるためクロミミオオヤマネコとも呼ばれている。

主に夜活動し、昼は茂みの中にひそんでいる。

動作はきわめて敏捷で、鳥の群れに飛びかかって一度に数羽をつかまえ、あるいは地面から２ｍも跳躍して飛ぶ鳥を捕らえもする。

草原の小型レイヨウ、ウサギ、鳥などを捕食し、ときには人家のヒツジをも襲い、マングースを捕って食いもする。

犬に追われると、木に登って避けるが、ときにははむかう場合もある。

イランとインドではカラカルを飼い慣らしてハトなどの鳥を捕らえることに利用されているという。

アライグマ

スウェーデンから金正日総書記に贈られた動物の中にはアライグマもいる。

フルビク遊園地経営会社が、1987年2月14日、総書記に贈呈したものである。以前ギンキジを金正日総書記に贈っていた当社は、自然を保護し動植物に大きな関心を抱いている総書記への敬慕の念がやみがたく、珍しいアライグマの一つがいを特別に入手して贈呈したのであった。

アライグマは中米や南米に棲む体重7～8㎏、体長42～60㎝の小動物である。指が長く爪は引っ込めない。

動作は鈍いが、木登りや水泳は極めて巧みである。なかなかの「大食漢」で、小動物から鳥の卵、昆虫、野菜、魚など目につくものは何でも選り好みせず捕って食う。

アライグマ

川で獲物をとるときは、前足を水中に入れ泥にまみれながらも巧みに餌を捕らえる。

卵の殻に穴を上手に開けて中身を吸い取り、魚やカニそれに軟体動物も好んで食べる。動物以外にも、トウモロコシを特

に好み、畑をめちゃくちゃに荒らしたりもする。
アライグマには唾腺がないため、食べ物は水に浸してから食べる。こうすると消化がよくなるのである。動物園のアライグマは、配合食のパンも水に浸して食べることが多い。
好奇心が強く、腹が空いてもいないのに危険な所へよく飛び込んでも行く。
獲物を見つけると、体の様子が突然変わる興味深い動物である。毛をまっすぐに伸ばして体に横たえ、大きな耳介を直立させて後ろ足で立って走り、信じがたい程敏捷に木に登る。
「夫婦仲」がよく、家族が一つ穴で４～５月まで仮冬眠する。
人間の多い所もいとわず、町や島にも棲み、愛玩用としても飼われている。
お互いに愛撫し、よくふざける。うれしいときは子犬のような鳴き声を出す。その行動は周囲の出来事に好奇心を抱くサルとよく似ている。

朝鮮で子を産んだチンパンジー

スウェーデン・コルメルデン遊園地経営会社動物園園長は、1986 年、金正日総書記にチンパンジー（雄）を贈呈した。これには深いわけがある。
1986 年、朝鮮中央動物園の人たちが贈呈動物を受け取りにスウェーデンへ出かけた際、当地のコルメルデン遊園地経営会社がチンパンジーの繁殖を上手に行っていると聞き、祖国の中央動物園にいるチンパンジー

のことを思い出した。それらは、金日成主席への敬慕の念をもってルワンダ及びザイールの大統領(当時)たちがそれぞれ贈ったものであった。

子を産むのは動物の本能によるものであるが、長年の間チンパンジーを動物園で繁殖させることが出来なかった。

金正日総書記はつとに、チンパンジーの繁殖が難しい原因をきわめ、きっと成功させるようにとたびたび強調していた。

彼らはチンパンジーの繁殖法についての助言を得たくて、コルメルデン遊園地経営会社を訪ねた。当社は、イルカに芸を仕込む一方、世界的な珍しい動物を飼育する小動物園を運営していた。事情を知った園長はとても喜んだ。

金正日総書記のことを聞くたびにはるかな朝鮮に思いを馳せていた彼は、総書記に喜んでいただける幸運に恵まれたとして、2匹の繁殖用チンパンジーのうち雄の方を総書記に贈呈したいと、ためらいなく申し出た。

彼はついで、総書記のすぐれた指導を得て発展を続ける美しい国朝鮮を気候のよい時節を選んで訪問したいと思っている、自分たちの念願がかなう日、世界で最も珍しい一つがいの動物を総書記にまた贈るつもりだと言った。

チンパンジーは二つの部類に大別される。

赤道ギニアに白頭のチンパンジーが群棲しており、1972 年には金髪のチンパンジーが報告された。

チンパンジー

血液型が０型とＡ型のチンパンジーの集団も発見されている。ピグミーチンパンジーの赤血球の免疫学的特性は、すべてのサル類のうちで最もヒトに近い。

チンパンジーは、数匹ないし数十匹が群れをなして棲み、そこでは、１～２匹のボス(雄)が数匹の雌及び多くの子を率いている。

チンパンジーはオランウータンと異なり、極めて強い活動力を有しているが、上体が特に発達していて跳躍力は弱い。深い水の中にはなかなか入ろうとしない。

そこで、動物園のチンパンジー園にはまわりに深い堀がめぐらされている。それでも、はしごや長い棒などがあると、それを渡して外へ逃げ出すこともある。

聴覚と視覚が共に発達しており、色も識別する。性は陽気で、はしゃいだり、うなり声を上げたりすることもある。

知能はかなり高く、道具の使用法も知り、簡単な道具は自作して使うこともある。たとえば、シロアリを取って食べるとき、まずたわみやすい適当な長さの木の枝を選んでシロアリの巣の中へ正確に押し込む。

アリが木の枝に這い上がると、それを引き抜いて、なめて食う。このように餌を捕るため木の枝を道具として利用しているのである。固い木の実は骨片や木切れで割って食べもする。

チンパンジーの寿命は約40年である。

チンパンジーは繁殖力が弱く、出生率より死亡率の方が高いため、国際保護動物として登録されている。

金日成主席と金正日総書記は、世界各国の大統領や人士から贈られたチンパンジー用の動物舎を立派に立てるようはからい、たびたびここを訪れては餌や温度の調節など管理上の問題を具体的に教えた。

金正日総書記は、見物人が類人猿に餌をやたらに与えると消化不良にかかるだろうから、メニューをきちんと作って規則正しく餌を与えるようにと言い、また動物舎の温度が 16 ～ 18℃なら寒いはずだとして、電気ラジエーターを動物園に贈った。

チンパンジーたちは朝鮮の気候風土と餌になれ、3 匹の子までもうけた。

チンパンジーの「へつらい」

ある日、チンパンジーを見物していた子供たちがお菓子を１枚投げてやったところ、幼いチンパンジーがすぐさまそれを拾って飼育人に差し出した。その奇特な行動に飼育人はチンパンジーの頭をなで、口づけをしてから、菓子を折って「弟」と半々に分けてやった。そんな様子をそばで眺めていたいま一匹のチンパンジーが、新たに投げられた１枚のお菓子を草むらから拾い出して飼育人に差し出したのである。

文字を書くオランウータン

ある研究所の「カオンツ」と言う名のクロオランウータンは、英語のアルファベット 26 字を覚えており、それで 250 の単語を綴りもするという。このオランウータンはいつも持ち歩いている単語表から必要な単語を選び出す。

研究所員に鬼ごっこをしようとせがみもすれば、ときには単語表を指して料理を注文することもある。

特別機で飛来したサイ

ジンバブエのムガベ大統領は深い敬慕の念をこめて、金日成主席と金正日総書記にクロサイとシロサイを贈呈した。

ジンバブエには、外国の国家首班に長寿を祈ってサイを贈る慣例がある。

ムガベ大統領は、朝鮮労働党第６回大会を傍聴した際初めて総書記に接し、非凡な洞察力をもって自国の革命に深い関心を寄せてくれている総書記への敬慕の念はいっそうつのった。とりわけ大統領は、金日成主席の遠大な構想を実現すべく朝鮮中央動物園を珍しい動物が最も多い動物園に作り上げようと努めている総書記に、自国の珍獣サイを贈ろうと思い立った。

大統領はジンバブエの多くの自然動物園の中で規模が特に大きく、いろいろな動物がどこよりも多いファングェ自然動物園で贈呈動物を収集するよう指示した。

サイは世界的に絶滅に瀕している動物で、捕獲が容易でない。まして環境に慣れない朝鮮の地で飼育し繁殖させることのできる標準型のサイを見つけて捕らえることは、至難のわざであった。

しかし、大統領は安全担当国務相を委員長とする独立祭行事準備委員会が責任を持ってできるだけ早く贈り物の準備をするよう強調した。

内閣は、週に１度サイなどの贈呈動物収集状況を聴取検討し、改善対策を講じた。

春の長雨で、サイの捕獲が困難になったとき、大統領は緊急閣議を

開き、ヘリコプターを飛ばすようはからった。

こうして、ライオンなどの猛獣やサイのように図体が大きく力の強い珍獣が群棲するファングェ自然動物園の上空には、ヘリコプターが飛び回った。ヘリコプターからの合図で、サイの位置を見付けると猟師たちは、麻酔銃を撃って捕らえていった。

それらの動物を首都から 500 km程離れたブラバヨ動物園でしばらく飼育し、そのうち一番健康で気質のよいものを選ぶようにという大統領の指示で、収集したサイの中からそれぞれつがいのクロサイとシロサイが選ばれた。

ムガベ大統領は、熱帯動物のサイの飼育は困難な点が多いだろうからと、サイの専門家と技術者を動物園に送って飼育法と、繁殖上のさまざまな特異な問題を詳しく教えて来るようはからった。

遠いアフリカから朝鮮までサイを運んでくるのは容易でない。それで近くのある国に停泊中の朝鮮の貿易船を利用しよう、いや、朝鮮に向

クロサイ

シロサイ

から外国の船舶を利用しようなどという案もあった。

このことを知った金正日総書記は、それが朝鮮人民のためになることならソロバンを合わせることばかり考えるべきでなく、飛行機で運んでくるのがよかろうと言った。

総書記の措置で飛行機が送られて来たことを知ったジンバブエ人民は大きな感動に包まれた。

ところが、サイの図体が大きすぎて飛行機のドアをくぐらせることができなかった。

報告を受けた総書記は、少し金がかかっても外国の大型輸送機を利用しよう、人民が珍しい動物を見て楽しめるのなら何を惜しもうかと今一度強調した。

こうして、アフリカのサイが大型輸送機に乗って朝鮮にやって来たのである。

遠い昔、サイはアジアやヨーロッパに広く分布していたが、今は5種のみがアフリカとアジアの一部地域に生息している。クロサイは、1653年、アフリカ東部で発見された動物である。体重は、1.5～2tで、シロサイよりやや小さく、体色は黄褐色あるいは濃い栗色で深い森林や熱帯樹林、草原、半砂漠地帯に棲んでいる。

視力が弱いため20～40m先のものはほとんど識別できない。他方、嗅覚と聴覚は発達している。

1時間に10㎏もの餌を食べ、その腸通過時間は38～40時間で、消化率は低い。これはサイを絶滅させつつある原因の一つである。

今ひとつの原因は、サイの乱獲にある。

クロサイの妊娠期間は11～18か月である。

朝鮮中央動物園にやって来たクロサイは、464日めに1頭の子を産んだ。その体重は35㎏であった。

クロサイの寿命は約40年である。

シロサイはクロサイと同様アフリカにのみ生息しており、体重は1.7～3.6tで、他のどの種のサイよりも大きく、ゾウにつぐ大きさの陸生動物である。

シロサイはクロサイと違い、口が四角形で大きいため、クチサイとも呼ばれている。寿命は約45年である。

アフリカの原産地には約2000頭のシロサイが生息している。

鼻の背と前頭部にそれぞれ直立した角を持ち、大きいものは80㎝にのぼるが、ときには1.5ｍに達するものもある。サイはこの角を固い石などで研いで自分を守るのである。

ところで、この角のせいでサイは乱獲され、減少の一路をたどったのであるが、今日では国際的な保護動物とされ法律で厳重に保護されており、ケニアなどアフリカの原産地では、実際に密猟者を厳格に取り締まっている。

いわれの深い白虎

朝鮮中央動物園には、中国黒龍江省民族経済開発総公司の崔守鎮(チェスジン)総経理が、2004 年 6 月 16 日、金正日総書記に贈呈したつがいの白虎がいる。

中国在住の朝鮮同胞である彼は、祖国をたびたび訪れているうちに白虎を贈り物にしようと思い立った。金正日総書記の生地白頭山(ペクトウ)に、白虎がいなくてはならない、白虎にたとえられている祖国に実物の白虎がいないなど話にならないと考え、白虎が出現しそうな所を数十回も尋ね歩いた。そのうちに自然動物園の東北護林園で白虎が出産したことを知り、専門家の助力を得てつがいの白虎を入手することに成功した。

白虎の入手では家族全員が協力した。当時、企業が不振で、暮らしにも困るほどであった彼は、シンガポールの家屋敷とホテルを売り払い、イギリス留学中の娘を呼び戻しもして、3 年もの間トラの購入資金を工面した。このようにして入手した白虎を広東省の護林園に預け、自宅から 2000 ㎞以上も離れた現地へたびたび足を運んでは白虎の生活状態を観察し、それらをいよいよ祖国に送ることになったときは、途中何か不祥事が発生して

白虎

はと3人の娘と夫人を同伴して、夜の目も合わせずに世話をやき、陸路無事祖国に到着すると、白虎を伝達する場で、祖国の人民が白虎を見て、白頭山の荒れ狂う吹雪にもめげず抗日闘争を展開した金日成主席と、その偉業を継いだ金正日総書記をいついつまでもおし戴こうという思いを新たにするであろうことを願うと言った。

彼のこうした念願には深い意味がこもっている。

何よりも朝鮮の白頭山には必ず白虎がいなければならないということ、さらには金正日総書記が白頭山で白虎にまたがって号令すれば、その気象がいっそう高まり、帝国主義者をおののかせるだろうということである。

朝鮮中央動物園で白虎はこれまで数匹の子を産んだ。

トラと朝鮮民族

トラの化石は北極地方で多く発見されており、このことからトラの発祥地は北極だと思われていた。

ところが、1960年代に平壌のコムンモル遺跡で約百万年前のトラの化石が出土し、トラが太古の昔から朝鮮民族と同じ地域で生息していたことが判明した。

朝鮮史上トラの話が初めて現われたのは古朝鮮の建国神話で、これにはトラとクマが太伯山（テペク）の神壇樹の下の洞窟に棲んでいたとある。

檀君伝説によると、古朝鮮の始祖檀君は長年世を治めた末、山に入り山神になったとされており、その山神図にはトラが檀君と一緒に描かれていたと言われている。

このトラは朝鮮民族の守護神とされ、高麗（コリョ）時代からは、守護神信仰がトーテミズムの変種として民間に広く普及した。

つがいの軍馬

朝鮮中央動物園には、中国の一人士から金正日総書記に贈呈されたつがいの軍馬がいる。

1998年以来、朝鮮の科学院（当時）及びその下部研究機関と科学技術交流を行い、その間、総書記のすぐれた指導力と高邁な人柄に深い敬慕の念を覚えていた彼は、2001年3月の訪朝に際して、世界で一番大きいイヌとされているスイスのセント・バーナードの最優良純種3匹を贈呈していた。

そのとき総書記が幼少年時代から乗馬を好んでいると知って、総書記の誕生日に際して、つがいの軍馬を贈りたいと申し出たのであった。

古い昔から軍馬は将軍の翼とされ、将軍と軍馬という2単語は不可分に結びついていると考えられて来た。多くの家畜の中で馬は最後に飼われるようになった動物で、初めから戦争に利用された。実際、名将と言われた将軍の勲功は例外なく、怜悧でたくましい名馬と切り離しては考えられない。

世界の各地には、主人に尽くした名馬の彫像が立てられており、その功績は伝説のように語り伝えられている。

彼は帰国後、事業を一時他人に委託して10数日の間諸所を尋ね歩き、電話もして、北京の一軍馬研究所に特別にすぐれた軍馬がいることを知った。

2001年4月中旬から8月初めにかけ軍馬研究所を12回も訪ねて、金正日総書記につがいの軍馬を贈る方途を相談し、当該の党及び行政

機関の承諾を得た。彼は、軍馬研究所の人たちと軍馬を用意し輸送する対策を討議する際、訪朝時に受けた印象を熱い思いをこめて語り、先軍政治をもって朝鮮革命を勝利へと導く総書記に軍馬を贈るのはごく当然のことだと誇らしげに言った。

軍馬の贈呈にあたって、彼はこう述べた。

「私のこの贈り物はささやかなものではありますが、金正日将軍への敬慕の念がこもり、今後とも将軍を慕う気持ちには変わりがないという意味がこもっています」

朝鮮中央動物園には、香港華旅国際資源有限公司理事会の北京長城陽光ホテル白亜南理事長と広州堯泰集団公司楊樹坪主席が、2008年8月21日、金正日総書記に贈った4頭の馬もいる。

北京長城陽光ホテル白亜南理事長と、北京芸術学園芸術部趙成民主任は、2007年12月、金正日総書記に銅彫の『雲を突き抜いて行く3頭の馬』と高級の二つの鞍を贈呈していた。

2008年4月、総書記は訪朝した白亜南理事長に返礼として、銀の茶セットを贈った。感激した理事長は、自分はただ総書記が乗馬を好んでいると聞いて、自社製の鞍を用いて健康を維持していただきたいと念願して贈っただけであるのに、このように返礼の贈り物を戴いて本当にうれしい、この次にはヨーロッパ産の優良馬4頭を求めて総書記に贈りたい、養馬が専門の自分は、乗馬がいかに健康によいかをよく知っている、必ず、すぐれた馬を求めて金正日総書記に贈呈したい、と重ねて言った。

帰国すると彼は、自営牧場の数百頭の馬の中から最良のヨーロッパ血統馬4頭を選び、去る4月、平壌を一緒に訪れた楊樹坪氏とも相談してこれらの馬を贈呈することに決めた。両人は、贈呈馬の伝達式を盛大に催し、朝鮮代表団を通して総書記へ敬意を表した。これらの贈呈馬には「黒龍（フクリョン）」「ルイニ」「月（タル）」「太陽公主（テヤンコンジュ）」などの名が付けられた。こ

のうちの「黒龍」と「太陽公主」は中国を代表してアジア競技大会障害レースに出場して優勝したヨーロッパ血統名馬の血を引く「名門」の出であり、とりわけ1歳のときから美しい体格と特異な気質を備えた「太陽公主」は、中国内でもなかなか得がたい人気の大きい馬である。

「ルイニ」と「月」は子をはらんで朝鮮に送られた。見事な体格と深いいわれを持つこれらの馬を見るべく、大勢の人が動物園を訪れている。

朝鮮中央動物園には、金正日総書記から寄せられた白馬をはじめ種々の馬がいる。

1987年晩秋のある日、中央動物園を訪れた総書記は、動物園に白馬など優良な馬を置けば、見物人を喜ばせるだろうと言い、その直後よく肥えた健康な白馬と栗毛3頭を動物園に寄せた。

半年後のある日、動物園を訪れた総書記は、見物人たちが白馬を見て喜んでいると聞いてたいそう満足し、動物園に今1頭の白馬と共に、外国人士から贈呈された貴重な鞍を寄せた。

今、中央動物園では総書記から寄せられた馬たちが見物人に喜びを与えている。

白馬の功

キリスト教世界の有名な英雄の一人に、数百年にわたるムーア人の支配を覆したエル･シッド将軍がいる。スペイン人は彼を救国者、伝説的英雄として語り伝えている。彼の名声と功績は、愛用の白馬と無関係でない。この白馬は、馬を飼っていた一教父からもらったものである。少年時代、教父から馬を１匹あげるから気に入ったものを選びなさいと言われて、なぜかとても醜い子馬を選んだ。教父は腹を立てて「バビエカ（間抜け者め）」と怒鳴った。シッドは子馬をバビエカと呼び、生涯、わが子のように可愛がった。バビエカは主人を乗せて、あまたの戦場を駆け巡った。

1099 年のある日の戦いでエル･シッドは致命傷を負った。死を前にして彼は、最後の命令を下した。部下たちは命令どおり、次第に冷えていく彼の体に鎧をつけて鞍にしっかり座らせ、冷たい手には剣を握らせ高くかかげて固定した。

白馬は主人の意を察したのか、無言の将軍を乗せて真夜中に市街を抜け、ムーア人の陣地にまっしぐらに駆け込んだ。

仰天した敵兵はエル･シッドが生きていると思い込んで逃げ回り、白馬の後に続いたスペイン兵は敵兵に追い討ちをかけて勝利をおさめた。

数百年にわたるムーア人の支配を終わらせることに貢献した白馬の功績を称えて、エル･シッドの死後、スペイン人は誰一人この馬に乗らなかったという。

オオカミ

朝鮮中央動物園のオオカミは、中国丹東経営貿易公司の朴成国社長が金正日総書記に贈呈したものである。

ハルビンの農家に生まれ、撫順工業大学卒業後貿易業を始めた彼は、商用で朝鮮にもたびたび訪れた。

その日々、金正日総書記の偉人像に心を打たれた彼は、国家的な祝日に総書記に祝電と祝賀状を送ることを忘れなかった。

1999年、朝鮮中央動物園を参観した際、金日成主席と金正日総書記へのさまざまな贈呈動物を見、それぞれのいわれを聞いて深く感動した彼は、自分のささやかな気持ちもここへこめてみたいと思った。

何を贈るべきかと考えあぐねていた彼は、朝鮮中央動物園にオオカミがいないことを知り、全人類の真心が集中しているこの動物園にオオカミが欠けていてもよかろうかと思い、それをきっと手に入れて贈ろうと決心した。

中国に帰ると彼は、内蒙古にオオカミが夜中に出没すると聞いて直ちに人を送り、ついに7㎏ほどの雌を手に入れた。

2000年9月15日、彼は心こもる贈り物を持って朝鮮を訪れ、金正日総書記にそれを伝達する際、総書記が動物園にめぐらす大きな恩情は、人民への愛の叙事詩であると、深い思いをこめて語った。

その後も彼は、金日成主席の誕生90周年と金正日総書記の誕生日を迎えて、またつがいのオオカミを入手して贈呈した。

彼は甘粛省の現地で猟師たちとしばしば会い、発育状態が最良のオオカミを入手したのである。

この種のオオカミは体重が25 ～ 45 kgの大型で毛色は白色、茶色、灰色、黒色などさまざまであり、アジア、ヨーロッパ、北アメリカなどの山岳地、山林、砂漠、草原などに棲む。

熱帯地方のオオカミは毛が短いが、海抜4000 mの高地に棲むチベットオオカミの毛は長くてふさふさしている。

北アメリカのヤブオオカミやハイイロオオカミは大型で、体重が79 kgに達するものもいる。

オオカミはシカ、ウサギ、小齧歯類、カニ、屍肉などを食べ、植物もいくらか摂取する。

直径30 ～ 95 kmの広大な円周内を行動圏とし、時速45 ～ 85 kmで走る。

視覚、聴覚、嗅覚はいずれも鋭く獲物を容易に発見する。

オオカミは用心深いが、気質が荒く、また、残忍でしつこく仲間同士で噛み合うこともある。

今一つの特色は行動が極めて敏捷なことである。動物園の檻と遊び場の中でも、ゆっくり歩くことがなく、いつも、同じコースを走り回っている。

雌雄はひとたび交わると一生仲良く暮らすという。

オオカミ

子が生まれると雌雄が力を合わせて育て、最初のうちは、親が消化した肉を吐いて子に与える。

凶暴なドール

ヤマイヌの一種であるドールは中型のオオカミほどの大きさで、体重は14～21kgで大型のイヌに似ており、キツネのように敏捷である。

群れをなして獲物を包囲攻撃するので、大小すべての動物に恐れられている。キツネのように狡猾で、獲物を見つけると、どこまでも追跡し、捕らえ易い場所に追い込んで捕食する。

極めて凶暴で動物舎や遊び場を仕切る網や鉄柵の隙間から足やしっぽがのぞいていると、仲間のものであっても噛みついて食うという。現在、世界的にドールは消滅しつつあり、保護動物に指定されている。

北極から来たキツネ

気温が零下50℃まで下がると、自然のほとんどすべてのものが凍りつく。ところが零下 80℃の中でも生きる動物がいる。ロシアのカムチャツカ、日本の北海道、カナダ、アラスカなど北緯55° あたりで生息するホッキョクギツネはその一つである。

この珍しいホッキョクギツネをチェコ･プラハ動物園のボフミル･クラル園長が金正日総書記に贈呈した。

敬慕してやまない金日成主席の誕生 80 周年を迎えて園長はタテガミヒツジなど3種の珍しい動物を贈呈し､誕生祝賀行事に招かれて主席の接見を受ける大きな光栄に浴した。

主席は彼の誠意にこたえて､恩情こもる記念品を贈った｡贈り物を受け取った彼は、大きな感動で一睡もできなかった。

翌日､彼は中央動物園を訪れ､金正日総書記に贈られた世界各国の動物を見、金日成主席の遠大な志を受けついでいる総書記の伝説のような話をいろいろと聞いた｡思想理論の英才であり､非凡な指導力で人民を導く金正日総書記の活動によってチュチェの革命偉業が保障され､主席に満足を与えているということを知って､園長の胸はいよいよ高鳴り､総書記に､自分もなにがしかの贈り物をしたいと思った。彼は帰国すると直ちに動物の入手に奔走した。

珍しい動物をつがいで手に入れることは易しいことではなかった。自分の動物園にない動物を求めて彼は、遠いアジアの南の地からヒマラヤの山麓へと足を運び､ついにホッキョクギツネをはじめ､数匹の動物を収集した。

1993年9月2日、彼はこれらの動物を深い敬意をこめて金正日総書記に贈呈した。氷に閉ざされた北極地方では、人間が真っすぐ立って歩けないほどの烈風が吹く。年に9か月の間雪が降り積もるこの地方の気温は零下50℃にもなる。この厳しい寒さの中でホッキョクギツネは生息しているのである。

ホッキョクギツネ

ホッキョクギツネは寒さに耐える身体構造を持っている。

とりわけ耳が極めて小さい。それは耳介のような身体の突出部位が小さいと、それだけ体熱の消耗を防げるからである。足裏には冬の間だけ毛が生えている。毛色は、冬は白く夏から秋にかけては灰色になる。冬の白い毛は長い管状を呈しているが、この管中の空気が保温に一役買うのである。

ホッキョクギツネは、1か月ほど何も食べなくても生きる。丘陵地の中ほどに穴を掘り、その中に棲んでいる。穴は何年も利用され、年々拡大される。そこには径が20～30㎝ほどの出入り口が多数あり、内部の広さは1㎡、高さは30㎝ほどである。興味深いのは、一つの穴を代々使い、年々より便利に補修していることである。

夏は果実、水分の多い木の実、海草などのほか、アザラシの屍肉などを食べる。雪が積もっているときは、大動物のホッキョクグマやオオカミなどの食べ残したものを求めて遠出する。ホッキョクグマの食べ残した骨を一所懸命になめ、すっかりなめつくしたものも雪の中に隠し

ておき、後日やって来てなめる。食べ物に窮すると、動物の糞も選んで食べる。

ホッキョクギツネが子をはらむと、雄は雌に食べ物を譲る習性がある。この頃、雌は食欲が盛んになり、餌が生じると雌が全部たいらげ、雄はがまんする。雌は1回に数匹の子を産む。子育ては雌の役目で、乳を飲ませたり、棲み家を移したりする。雄の役割はその保護である。子は生まれて2か月ほどして自力で餌を探すようになる。さもないと厳しい冬に負けて死んでしまう。

寿命は、飼っている場合、約14年である。

また、ノルウェー共産党トロムス州委員長も、1989年の新年を迎えて、金正日総書記にホッキョクギツネを贈呈している。

2007年9月30日、中国丹東朝新水産有限会社の鄭 成秀（チョンソン ス）総経理も、金正日総書記につがいのホッキョクギツネを贈呈した。

彼は、2007年8月、朝鮮を訪れた際、万景台（マンギョンデ）やチュチェ思想塔など平壌市の名所を参観し、テレビジョンを通して金正日総書記が昼夜兼行で人民軍各部隊や人民経済各部門を現地指導している姿を見て、朝鮮の先軍政治の威力と、朝鮮人民が「苦難の行軍」と強行軍をどのように克服したかがよくわかったと話し、珍しいホッキョクギツネをつがいで贈呈したいと申し出た。

その後、ホッキョクギツネを求めてひと月ばかり、中国の各地に電話もし、現地にも足を運んでようやくホッキョクギツネをつがいで入手し、朝鮮労働党創立62周年に際して、金正日総書記への贈り物とした。その際彼は、「将軍の先軍政治は世界にまたとない政治です。将軍さえおられたら朝鮮は必ず勝利し、祖国の統一も遠くはありません。統一がなれば朝鮮はいっそう強くなるでしょう」と熱い思いをこめて語った。

草原の清掃人ブチハイエナ

旧東ドイツ･ベルリン動物園園長は、1986 年 4 月、金正日総書記にブチハイエナを贈呈した。

当動物園は、朝鮮との動物親善交流をかねてから願っていた。

彼らは、世界各国から総書記へ贈られている動物のことを知り、世紀の偉人にたいする敬慕の念に駆られていたのである。

そうしたある日、朝鮮中央動物園の人たちが贈呈動物の輸送途中、ベルリン動物園を訪れた。

当動物園では彼らに心からの援助を行ったばかりでなく、この機会に、かねてから念願していた金正日総書記への贈り物を提供したのである。それはベルリン動物園の子持ちの雌と雄のブチハイエナであった。

ブチハイエナはサハラ砂漠で生息している。

普通のハイエナはイヌに似ており、体長約 1 m、体重 27 ～ 54 ㎏であるが、ブチハイエナは体長 1.3 ～ 1.6 m、体重 59 ～ 87 ㎏である。

ブチハイエナ

顎と歯が頑丈で、ライオンのような猛獣が捨てた骨も噛み砕いて食べる。屍肉や腐肉、他動物の食い残しもみな食べるので、「草原の清掃

人」とも呼ばれている。門歯と犬歯は柔らかい肉を噛みちぎり、前臼歯は骨を砕き、臼歯の上縁は先鋭で皮や腱を雑作なく噛み切る。粉ごなに砕かれた骨は胃中で完全に消化される。このようにブチハイエナは何でも食べ、ことごとく消化する力が備わっているのである。飽食すると 45 時間以上睡眠する場合もある。

30 ～ 80 匹の群れが一定の領域を占め、ヒツジ、ヤギ、子ウシを集団で襲い、ロバのような大きな動物も引きずって行くほど力が強い。縄張り内には、肛門の分泌物をあちらこちらになすりつけたり、糞尿で境界を表わしたりする。

もし、別群のブチハイエナが獲物を追って境界線を越えて来るようなことがあると、闖入者を追い払い、飛び込んで来た獲物をわが物にする。

ブチハイエナはライオンと獲物の奪い合いをすることもある。大抵はブチハイエナの方が捕らえた獲物をライオンに奪われるが、まれには、群れてライオンの獲物を奪うこともある。ライオンとの争いでハイエナが死ぬと、ライオンはその死骸をめったに食わないが、ハイエナはライオンを殺すとすっかり食べ尽くしてしまう。

人間に育てられているブチハイエナは、かなりおとなしいと言えるが、用心深い。

寿命は平均して 12 年とされている。

歴史の最も古い動物園から贈られた
ゴシキカワラヒワ

オーストリア･シェーンブルン動物園のダグマル･シュラーテル副園長とペテリン･ハルト園長補佐は、2000 年 7 月 25 日、朝鮮を訪れた。

朝鮮中央動物園には世界各国から金日成主席と金正日総書記に贈られたさまざまの動物がいると聞いていた彼らは、自分たちも朝鮮の動物園にオーストリア動物館を建てて総書記への贈り物にしようと考えて朝鮮にやって来たのであった。

このとき彼らは、金正日総書記に手紙を添えてゴシキカワラヒワ４羽を贈呈したあと、朝鮮中央動物園を注意深く見て回り、「私たちの動物園は世界最初の動物園としての誇りがある。しかし、世界の真心がこもる朝鮮中央動物園こそ全世界の動物園中の最も誇り高い動物園です」と胸を高ぶらせて言った。

世界で最初の動物園であるオーストリア･シェーンブルン動物園が生まれて 250 余年が経っている。

オーストリア皇帝フランツ 1 世は、皇后と 16 人の子供たちのため首都ウィーンにこの動物園を作ったのである。この動物園は王室のためのものであった。元来、シェーンブルンには、1570 年頃野生動物園が存在していたが、密猟者に荒らされて動物数が著しく減少し、それに敷地も狭かったので、1752 年に改めて建設が始まり、7 年後の 1759 年に完成したのである。

動物園の中ほどに軽快な趣のあずまやがあり、動物舎はそのまわりにめぐらされていた。このあずまやで皇帝夫妻はしばしば食事を取っ

たという。

あずまやには30種の動物を画いた油絵などが飾ってあった。それらは、1752年から1759年の間ここで飼われていた動物である。動物園では職員たちが1755年から4年間、西インドを見学旅行し、多くの珍しい鳥類や植物を収集した。

ゴシキカワラヒワ

皇帝は死ぬまでこの動物園に愛着を抱いていた。あとを継いだ皇帝ヨーゼフ2世は、アフリカ見学を実施し、その機会にいろいろの動物を収集し、動物園を充実させた。この頃、動物園は無料で一般に公開された。

1828年、動物園にはキリンが初めて収用された。これは前代未聞の珍事とされ、社会生活にいろいろと多くの影響を及ぼした。衣装や装飾品などの消費品にキリンの図柄が入れられて広く売られ、芝居にもキリンが登場するほどであった。

1914年、この動物園には約712種3500匹の動物がいた。第1次世界大戦中は管理が困難で約900匹に減り、第2次世界大戦では爆撃で400匹に減ってしまった。

君主制の崩壊後、動物園はオーストリア共和国の管理下に置かれた。

今も動物園の名称は昔通り「メナゲリ・シェーンブルン」と呼んでいる。この動物園の出現後100年も経って、ベルギーにアントワープ動物園が作られた。

1992年、シェーンブルン動物園は、創立240周年を盛大に記念した。

ゴシキカワラヒワはカワラヒワ科の鳥で、ヨーロッパ、西アジア、アフリカ北部、北アメリカの一部に生息している。頭と首すじが黒く、胸部は茶色、羽は黒色、尾は白い斑点のある黒色というふうにいろんな色が混じっているとしてゴシキ（五色）カワラヒワと呼んでいる。

体長は13cmほどで、高原や森林、深い山の裾で、小さな群れをなしたりつがいで棲む。草木の穂先に止まって種を突っつき、つぼみや新芽、小虫なども食べ、クリ、ドングリ、果樹、カエデの木などに好んで巣を営む。面白いのは、雌が巣を作っている間、雄は喜んで歌をうたうことである。

この鳥は、北方で繁殖し、南方に飛来して越冬する。

はでな色と美しい鳴き声のために多くの愛好家に飼われ、動物園でも飼育の長い伝統を持っている。

海外同胞の心こもるカナリア

総聯京都本部金鐘戌(キムジョンスル)副委員長は、1991年10月28日、カナリアをはじめ11種のきれいな観賞鳥を金日成主席に贈呈した。

日本で暮らしている彼にとって金日成主席は心の寄る辺であり、偉大な師であった。それに、ふたりの息子が祖国で大学を終え主席の配慮のもとで幸せに暮らしていることを思っては、感謝の気持ちで胸が一杯になるのであった。

(生みの親にもまさる温情をほどこして下さる金日成主席のご恩にいささかなりとも報えたら……)

このような思いにかられて彼は、いろいろと思案した末、金日成主席の誕生80周年を祝って、特殊な観賞鳥を贈ることにした。

そこには自然を愛する主席に、仕事の合間に鳥のさえずりを聞いて疲れを少しでも癒してくださればという願望がこもっていた。

彼は専門家の助言を得て京都動物園その他日本各地の動物園を訪ねて、可愛く美しい鳥を買い求め、それらを持って平壌を訪れた。

金日成主席は副委員長を接見し、どれもが美しい鳥だと言ってたいそう喜び、彼の誠意を称えた。

カナリアは朝鮮で金鈴鳥(クムバグルセ)とも呼ばれている。

鳴き声が鈴の音のように美しく、体色も黄金のようで、広く人々から愛玩されている。

アトリ科に属し、西アフリカのカナリア諸島に生息しているので、この名がある。

人工的にいろいろと改良され、鳴き声、羽の色、姿かたちなど飼

育者の趣向によって変わった品種が得られている。

鳴き声が改良されたカナリアの種には、歌をうたうもの、ソプラノ、バス、ピアノ音などを出すものなどがある。

カナリア

孵化する前から、最も美しく鳴くカナリアの声を録音して、繰り返し聞かせていると、そのような鳴き声を出すようになるという。

毛色の改良種は、実に 30 余種にのぼる。

褪色を防ぐためには色素の入った餌を与える。たとえば、赤いカナリアにはニンジンのような赤色の色素を持つ餌を与えるのである。

歌をうたうよう改良されたカナリアが、実際に合唱をしたという珍しい例もある。

ソプラノからバスまでの鳴き声を出す「カナリア合唱団」は、ロシア民謡、ベートーベンの「月光の曲」など数十もの曲をウクライナで演じて絶賛を博した。

カナリアは、鳥類学者の「指導」のもと、完璧なハーモニーを形成するほどの境地に達し、1980 年には、専門の歌手と一緒に延べ数百万の観衆を前にしてコンサートを行った。

飼われているカナリアの寿命は最高 24 年とされている。

1983 年 11 月、朝鮮を訪れたデンマークのユーラン・ウルフボルグ・トゥインド旅行小学校の校長ミカエル・ノーリングは、金正日総書記

につがいのカナリアを贈呈した。

　総書記は、彼が西部ユーラン州「金日成同志チュチェ思想研究グループ」の責任者で、不滅のチュチェ思想を深く研究し、広く宣伝しながら、朝鮮の統一を願って積極的に活動していることを高く評価した。

日本から渡って来た動物

朝鮮と日本の間には国交関係がない。

朝鮮東海を挟んだ両国が近くて遠い国としていまだに国交が樹立されていないのは、日本政府の共和国敵視政策によるものであるが、政界をはじめ社会各界人士から金日成主席と金正日総書記にいろいろな動物が贈られている。

ハゴロモヅル

京都動物園の高松俊英園長は、1987 年 5 月 17 日、金日成主席の誕生 75 周年を祝ってハゴロモヅルを贈呈した。

朝鮮中央動物園と京都動物園の交流は、1986 年 6 月に始まった。

交流が盛んになり、朝鮮動物交流代表団としばしば会うなかで、平壌について、幸福な朝鮮人民について、とりわけ金日成主席の偉大さについていろいろと知るようになった高松園長は、朝鮮を訪問した京都代表団員たちから、朝鮮

ハゴロモヅル

中央動物園の贈呈動物についての話を聞くにおよんでは、もはやじっとしていられなくなった。

世界各国の国家首班や政界・社会各界人士が、金日成主席に贈呈した動物の話に強烈な感動を覚えたのである。

こうして彼は動物園で愛育している特別に珍しく美しいハゴロモヅルとパタゴニアノウサギ(マーラ)を主席に贈ろうと決心した。

見るほどに美しくて愛らしいこれらの動物を眺めながら彼は思った。

(自分の素朴な気持ちが、人類のために献身している偉大な方にいささかなりとも喜んでいただければ……)

彼は自分の手で贈呈動物を馴らしたばかりか、主席の誕生日に当たってじかにそれらを主席に贈呈したいと決心し、船に揺られて海を渡り朝鮮を訪れた。

5 月 21 日、中央動物園では高松俊英京都動物園園長が金日成主席に贈る動物の伝達式が盛大にとりおこなわれた。

ハゴロモヅルは舞台上のソロダンサーよろしく白い翼を広げ自分なりのリズムに合わせていつも踊りをおどっている。

見物人の有無にかかわらず楽しげに踊るこの鳥の「舞踊」は、見る人々を浮き浮きとさせる。

ツルは沼沢地や平原に棲み、人々に親しみを覚えさせる美しい鳥である。夜明けと共に餌を求め群れをなして飛び立ち、日暮れどきにねぐらに帰る。

世界的な保護動物であるツルには、タンチョウヅルをはじめ種類が多い。アオヅルはその美しい羽がまるで羽衣のようだとしてハゴロモヅルとも呼ばれている。

ハゴロモヅルはアフリカ南部ザンベジ川以南に分布している。

頭部には淡い銀白色のビロードのような羽毛があり、首と背はヤナ

ギの葉のような美しい羽毛で覆われている。
足元まで長く伸びた黒色の翼の羽毛はたいそう優雅で、あたかも羽衣のような感じである。ハゴロモヅルは水辺の草原で雌雄が１〜２羽の子ヅルを連れて棲む。穀類、草の種、昆虫類、爬虫類、魚などを餌とする。ツルの寿命は50 〜 60 年である。

カンガルー

1990 年 7 月 24 日、田辺朋之京都市長（当時）は金正日総書記にアカカンガルー１頭を贈呈した。
朝日両国人民の友好親善の一環として進められていた動物交流は、1987 年に入り一段と活発になった。
風浪の激しい海上を行き来して朝鮮との動物交流が進んでいたとき、田辺市長は、朝鮮中央動物園には世界諸国の首班や多くの友人たちから、総書記に贈呈された少なからぬ動物がいることを知って自分も贈り物をしたいと思い立ち、心をこめて準備したアカカンガルーを訪朝する京都市文化観光局長一行に託した。
アカカンガルーは、オーストラリア大陸のほとんど全域に生息するカンガルー中の最大種のひとつである。当大陸には約 150 種のカンガルーがいるという。
動物だからといって雌雄が相手かまわず結びつくのではない。
雌は相手を選ぶ場合、意志が強く勇敢で家族を保護するだけの力があるかどうかをテストする。カンガルーの場合、その判定は雄同士でくりひろげる「ボクシング」によって行われる。前足が短いカンガルーは、あたかも人間のように後ろ足で立ってボクサーよろしく殴り合いを始

める。前足では相手の顔を容赦なく殴りつけ、ピョンピョンと飛び上がっては後ろ足を揃えて蹴ったり、後ろに向きを変えながら片足を上げて蹴ったりもする。

それはテコンドー選手のようだとも言える。

アカカンガルー

闘いがいかに激しいかは、体毛が見る見る抜け落ちてしまうことからもわかる。一方がノックアウトされなくても押しまくられて逃げ出すと勝負は決まる。こうして「チャンピオン」となった雄は、群れのボスとなり、雌を手に入れることにもなる。

走るときは後ろ足だけを使うが、1度に普通1.2～1.9ｍの歩幅で飛び、最高9ｍにも達するが、そんなときは空中を飛翔しているかのようである。だからカンガルーは走り幅跳びの名選手でもある。短距離の場合は時速48㎞で走ると言われている。

アカカンガルーは腹部の育児嚢に子を入れて育てる特異な動物である。

受胎して30～40日目に1匹の子を産むが、新生児の体長は2.5㎝内外で、親の6万分の1ぐらいにしかならない。

育児嚢の中には4個の乳頭がある。

カンガルーは胎盤が不完全で、胎児は子宮内で十分に育たずに産まれ、嚢内に入れられるとひとつの乳頭にだけ口をつける。

乳は吸うのではなく、乳房の筋肉の収縮作用によって流れ出るものをただ飲むだけである。

嚢内の子は7～8か月後、外に出て草原で成長する。

囊を離れることになった子はまず後ろ足で雌親を蹴る練習をし、ついで、低木を相手に高跳びの練習をする。

芽を吹き始めた木はしなやかでなかなか折れないので、高跳びの練習にはもってこいである。自立をはじめた子が囊に戻れないよう、雌親は横たわって囊の外で乳を飲ませ、いまや大草原が住家であることを悟らせる。

アカカンガルーはしばしばヤマイヌの襲撃を受けるので、四六時中、親が交代で番をする。ヤマイヌに襲われて逃げ遅れた子は、親が必ず助け出して来る。

カンガルーという名の由来

1770 年 6 月、「ノリ」号に乗り組んで航海していたイギリスのある探検家がオーストラリアの某海岸に上陸したところ、腹部に囊のある奇妙な動物を発見した。土着民に尋ねると「カンガルー」と言うのである。それで彼はこの動物をカンガルーと呼んだ。あとになって知ったことだが、「カンガルー」とはこの動物の名ではなく、「何を言っているのかわからん」と言う意味であった。

ジャガー

朝鮮中央動物園には、田辺朋之京都市長から金正日総書記に贈られたジャガーがいる。

ジャガーは、米州に棲むネコ科最大の獣で、アメリカの猛獣の典型だと言える。一見ヒョウと類似しているが、いっそう強健で、北アメリカ南部と南アメリカの湿地帯に多く生息している。体重は63 ～ 136 kgで、サル、イノシシ、爬虫類、魚類を好んで捕食する。よく泳ぎ、水中に入るのを好む。川の浅い所を選んで、魚が下って来るのを辛抱強く待ち構え、魚が目の前に現われると、不意に前足で叩きつけ、爪に引っ掛けて地面に投げ上げる。あまり深くない水中では、泳いでいる魚も巧みに捕らえる。

カメにとってジャガーは非常に恐ろしい敵である。ジャガーは、産卵のため海から陸へ上がるカメを襲って餌食にする。カメを捕らえると、引っくり返して腹を上に向けて動きが取れないようにした後、爪で腹部の柔らかい部位をえぐる。爪はあたかもメスのように動く。肉の一部しか食べずに捨てるので、住民たちが余禄にあずかるという。

ジャガーは人間を見ると、先に避け、特別な状況以外では、人間に襲い掛かるようなことはないと言われている。

ジャガーは単独で生活する。

飼育されているものは飼い主をよく見分け、近寄るととても喜ぶそうである。子イヌやネコと一緒に飼うと、仲良くたわむれ遊ぶ。動作がすばしこく、見ていても楽しい。だが、大型のジャガーは活動が鈍く、敏捷なところがない。

毛皮は大変珍重されており、これがジャガー狩猟の主な目的とさ

れている。ほかにも、身体の諸部は薬剤としての利用価値があるという。

ハクチョウ

日本「白鳥の会」松井繁会長は、1991 年 10 月 25 日、金日成主席に真心を込めてコブハクチョウを贈呈した。

「白鳥の会」は、ハクチョウの分布と繁殖に心がけ、死滅を防ぐなど、保存管理の現状と趨勢を広く紹介し、統制もする団体である。

金日成主席は、動物園を訪れた際、池のほとりに足をとめ、世界の各地から集まったいろんな水鳥を眺めながら、コブハクチョウはとても美しい、終日この美しい光景を楽しんでいたら老けることもなかろうと言って笑った。

動物は人間の生活と深い関わりを示す多くの文学作品に主人公として登場している。

白鳥はかなり多くの作品に登場する「人気動物」の一つである。それは、一度契りを交わした相手を生涯の伴侶とする特色を持っているからである。

ハクチョウは多くの伝説や物語に現われ、愛の代名詞とされている。

世界の初期バレー作品の主人公にされたのは、ハクチョウの大きな「誇り」であろう。

バレーの嚆矢は、1581 年、フ

ハクチョウ

キンケイ

ランス・ブールボン王朝の宮廷で、王子の婚礼を祝って上演された『王后のバレー・コミーク』とされているが、ロシアでチャイコフスキーの『白鳥の湖』がバレーに取り入れられてから、著名な音楽家はバレーのための作品を多く発表している。

ハクチョウはヨーロッパと東南アジア、それにロシアのアムール川一帯に分布しており、朝鮮には、毎年11月に渡来して冬を越し、3月初旬再び繁殖地に戻る。

ハクチョウは、ヨーロッパで900余年間飼い慣らされて、半家禽化している。くちばしは赤色で、くちばしと鼻孔の周りは黒色を帯びている。

モスクワ動物園は、ハクチョウとキンケイを金正日総書記に贈呈した。朝鮮との動物の交流中、金日成主席と金正日総書記への敬慕の念をつのらせたヴェ・ヴェ・スピーチン園長は主席の誕生76周年に際し、新品種を増やすうえで意義の特に大きいイヌであるオプチャルカのつがいを贈呈していたのであるが、その後、当動物園の訪朝団員たちは中央動物園内のヨナス贈呈館に深い感銘を受け、金正日総書記に心からの敬意を表して、自分たちの動物園のハクチョウとキンケイを贈呈したのであった。

朝鮮に渡った珍犬たち

シベリアハスキー

総聯大分県別府支部崔聖教(チェソンギョ)委員長は金正日総書記にシベリアハスキーを贈呈した。

祖国の解放前、生活難のために生まれ故郷を後にした彼は、その後金日成主席と金正日総書記の大いなる信任のもとで、総聯の一支部委員長として朝鮮公民の名誉を輝かせてきた。

祖国を幾度となく訪れた彼は、主席と総書記が外国の首班や人士から贈られた動物をすべて中央動物園に寄せ、人民に喜びを与えていると言う話を聞いて大きな感銘を受けた。それに、総書記の配慮のもと、金日成総合大学を出てすぐれた動物専門家に育ったわが子に会うたびに、祖国の有難さを身に沁みて感じ、主席と総書記に貴重な動物を贈呈して、その恩情にいささかなりとも報いたいと思った。

シベリアハスキー

彼は動物業者と相談して、4か月間、いろいろのイヌを飼育し、そのうちで最もすぐれたシベリアハスキーを含む 6 種 8 匹の珍しいイヌを選び、祖国を訪問した際、総書記に

贈呈した。

　その後、再び祖国を訪れた折、総書記が中央動物園の現地指導中、動物園にすべての種類のイヌがあれば、さぞ人民が喜ぶだろうと言った話を聞いて、再び珍しいいろいろなイヌを求め、総書記に贈呈した。

　シベリアハスキーは、シベリアをはじめ雪国でそりイヌとされており、北極探検にも一役買っている。非常に勇ましく体格も見事である。振る舞いはオオカミに似ているが、とてもおとなしくて番犬に向かないとはいえ、辛抱強く、困難を克服する意志力に富んでいる。

　崔聖教委員長が贈呈したイヌにはドーベルマン、ブルテリア、シェパード、ボクサー、シバイヌ、キシュウイヌなどもある。

　ドーベルマンは、ドイツのドーベルマンが作り出したことでこの名がある。

　ブルテリアは「最高の闘犬」とされている。イヌがウシを噛み殺すような競技が禁止されたイギリスでは、人気が闘犬に移って行った。イヌ同士たたかわせるには頑強で敏捷な犬が必要である。こうして、1846 年、ブルドックとイングリッシュ・テリアを交配して、ブルテリアが作り出されたのである。

　典型的なブルドックはイギリス種で、14 世紀からウシの捕獲に利用された。ブルドックはウシを追跡して吻に噛みつき、ウシが倒れるまで放さない強靭な力を誇っていた。

　その後、性質がかなり温和になったそうである。攻撃型の気質で肩と体躯が隆々とし、頭は大きく吻は短い。尾と体毛も短い。

　これらは、相手に攻撃の隙を与えない闘争的な本性を生かしつつ長年の改良を通して作り上げられたもので、一見獰猛だと思えるが、実際はやさしく、愛嬌もある、人になつき易いイヌである。利口で闘

志があり、勇敢で忍耐強く、強靭かつ持久力に富むため、猛獣狩りに大いに利用されている。横浜市石川商事張勇峰（チャンヨンボン）社長は、1994 年 10 月 1 日、金正日総書記にドーベルマンなどの珍犬を贈呈した。在外の愛国的商工人たちが、祖国のためにいろいろと貢献していると大きく称え、記念写真まで一緒に撮って下さった総書記の大きな信頼に応えて張勇峰社長は誠意の限りを尽くした。

「獒樹（オス）の犬」物語

朝鮮の歴史には、主人のために命を捧げた忠犬の物語が伝えられている。

昔、ある人が隣村の結婚式に招かれて泥酔し、帰路、山裾で寝転んでしまった。たまたま山火事が起こり、彼は火に包まれた。このとき飼い犬が主人を救って、自分は焼け死んだ。主人は犬の恩が忘れられず、立派な墓を立てた。

月日は流れ、墓のかたわらに１本の木が生えた。

獒樹という名のこの木はいつしか村の名になった。

伝説のような話だが実話であることを立証するいくつかの記録が残っている。高麗の文人崔滋（チェジャ）（1188 ～ 1260）の著『補閑集』には、イヌの主人は儒生金蓋仁（キムゲイン）であり、彼が犬の忠節をうたったのが『犬墳曲』であると記されている。

この話は、李朝時代の史書にも見える。世界最初の漫画とされている英祖（ヨンジョ）21 年（1745 年）の『義狗図』に、主人を山火事から救うイヌの絵があり、これより先『東国輿地勝覧』巻 39 にも獒樹という地名と共に忠犬の話が収録されている。

彼は、水産物や漁具を扱って、外国と貿易をする商工人で、遠いオーストラリアから良質のマダカアワビを取り寄せて祖国の養殖場に送り、その際運輸車両や漁具もいろいろと送った。

彼は、金日成主席の急逝を知ると、総書記の悲しみを少しでも和らげたいとの一念から愛犬のうちの珍種を選んで贈呈したのである。

スパニエル

朝鮮中央動物園には、1995 年 11 月 26 日、ニューヨーク・タプコー社の李錦順（リ クムスン）社長が、金正日総書記に贈呈したイングリッシュ・コッカースパニエルがいる。

5 回にわたる祖国訪問を通して、金正日総書記への敬慕の念を深めた彼女は、何か心こもる贈り物をしたいと思い、世界に広く知られた愛玩犬を贈り、総書記に楽しんでいただきたいと思った。

彼女は、昔は王族の独占物とされていたスパニエルのうちでも一番可愛い茶目なコッカースパニエルを選び、自宅で飼って観察した。

彼女の贈り物には、総書記の健康を願う真情がこもっている。

総書記はこのイングリッシュ・コッカースパニエルを、多くの人が見られるよう中央動物園に寄せた。

世界で愛玩犬は 200 余種にのぼるが、スパニエルが第 2 位に数えられたらちょっと残念がるだろう。それほどこの犬は、愛嬌と親切なことで広く知られている。スパニエルとは「スペイン犬」という意味で、フランスとアメリカに多い。

人なつっこく魅力的で洗練された容姿と華麗な毛並み、朗らかで温和な性、愛らしい表情のせいで人々にたいそう好かれている。スパニエ

ルは仲間同士でも愛嬌がよい。

さざ波立っているような毛が絹のように美しく、足の後ろ側と腹の左右には長い飾り毛がある。

毛色はいろいろである。

スパニエル

スパニエルも多くの品種に改良されている。アメリカ産のイングリッシュ・コッカースパニエルは、元来、すぐれた猟犬であった。祖先は鳥猟犬で、17 世紀、シギ（コック）猟に使われるようになってコッカーと呼ばれるようになった。

獲物のまわりを走り回る癖があり、においを嗅ぎつけると尾を振って鳥の出現を知らせ、獲物が近づくと尻を振って鳥が飛び立つと告げる。しかし、今では応接室などで飼われる愛玩種となり、人によくなつき、利口で活発なイヌとなって、主人とたわむれたり、散歩を一緒にしたりするようになった。

イングリッシュ・コッカースパニエルは愛想よく快活な小型のイヌで、諸外国ではテレビコマーシャルなどで広く紹介されている。

スパニエル種は、このように愛玩用として特別人気のあるイヌである。

セント・バーナード

2001年3月1日、中国･瀋陽農業科学技術開発院の宋士勇副院長は、純血のセント･バーナード3匹を金正日総書記に贈呈した。

彼は朝鮮戦争（1950～1953年）に参戦した祖父から金日成主席のすぐれた指導力や英雄的な朝鮮人民についていろいろと聞かされながら育った。

彼は朝鮮を訪れ、錦繍山（クムスサン）記念宮殿や国際親善展覧館など各所を参観して、金正日総書記が世紀の偉人として世界の人々から称えられているわけをはっきりと知った。国際親善展覧館を訪れた際、彼は、このような贈り物館は朝鮮にしかなく、今後も同様であろう、この展覧館は偉人を称える大殿堂だ、と力をこめて語った。

世界の各地から、偉人への敬慕の念こもるさまざまな記念品が贈られている今、自分は何を贈呈すれば尊敬心の千分の一なりとも表わせようかと何日も考えた末、動物研究者の自分にとって出来ることは朝鮮にまだない世界最大の体格を誇るセント･バーナードを贈ることだと決心した。

セント･バーナード

既に、1995年、スイスで求めた純血のセント･バーナード20匹を研究して成果を上げ、その数を 5000 匹に増やしていたので、その中の最良の3匹を選んで金正日総書記に贈呈

したのであった。セント・バーナードは、300 余種にのぼるイヌの中で断然「王者」と言える。

体重は普通 100 kg内外であるが、最高 138.4 kgになるものもいる。このイヌは一名「アルプスの王者」と呼ばれている。

セント・バーナードは、スイスの深い雪に覆われたアルプス山中で、道に迷った旅人たちを救出していたことで広く知られるようになった。

西ヨーロッパの南部には、イタリアからスイス、フランス、オーストリア、ドイツへと東西にまたがる大山脈がある。山脈の名は国によって異なるが、英語名ではアルプスと呼ばれている。イタリアとの国境に近いスイス内のこの険しいアルプスの峠に、962 年、修道院が建てられた。ここの修道僧たちは、長年、峠を越える旅人の世話をやいた。彼らは道に迷ったり、深い雪に埋もれて救いを求める人たちを積極的に救助したが、そこでセント・バーナードが一役買った。セント・バーナードは元来峠の名であるが、やがてこのイヌの名ともなったのである。ここでセントとはつまり「聖者」である。

1800 年頃になってはじめてアルプスの峠の修道院に、道に迷った旅人を救う特殊なイヌのいることが世に広く知られるようになった。

セント・バーナードは 2 ～ 3 匹が一組になり、ワインの小瓶とパンの袋、衣服を入れた包みを首にかけて救助に向かい、倒れた人を発見すると一匹は修道院に向かって吠え、一匹は意識を失った旅人を抱くようにして横たわり、手や顔をなめて暖め、気付け用のワインを旅人の口に当てる。嗅覚が非常に発達しており、氷の下 6 mに沈んだ人を探し出して生命を救った例もある。そればかりか、雪崩を数分あるいは数秒前に予感し、危険な箇所にいる人たちを避難させもする。

救助中に命を落としたイヌも多いという。

主人の仇討ちをした軍犬

ロシアのある国境陣地にスタロスチンという軍犬手がいた。彼は精力を傾けて軍犬を訓育した。この軍犬は主人の顔色を見て自分が何をすべきかを知った。ある日、越境を企てた敵兵との戦いでスタロスチンは戦死し、軍犬は負傷した。戦友たちは、死体のそばに人間の指が 2 本転がっているのを見た。軍犬が主人を守って戦い、敵兵の右指を噛み切ったものであった。

このときから、軍犬には「ヴェルノスチ」という名が付いた。ヴェルノスチは「忠」という意味の語である。イヌは全快後も新しい軍犬手の命に従わず、いつもスタロスチンが戦死した場所へ行っては悲しそうに吠えるのである。そんな犬はもはや軍犬としては役立たないとして、スタロスチンの戦友アレクサンドルに与えられた。

その後、犬は除隊したアレクサンドルに引かれてある小都市に移った。それは最初の主人をなくして 8 年めの年のことであった。ここで犬はどうしたわけか、不安げにくんくんと空気のにおいを嗅いだり、外へ出ても道ばたの物のにおいを嗅いだりしては、全身の毛を逆立てるのであった。

そんなある日、犬が急にどこかへ走って行くので、アレクサンドルが帰れといくら呼んでも戻って来なかった。それから 2 時間程して、犬がある人間を噛み殺したと聞いて駆けつけて見ると、そこには右手の指 2 本のない死体が転がっていた。

つまり、死人は 8 年前、国境の戦いでスタロスチンを撃ち殺した人だったのである。

主人の仇討ちをした犬は、静かに息をひきとった。かたきと戦っているとき数発の銃弾に撃たれたのである。

このように献身的なイヌの中でもっとも有名なのが「ベリー」である。ベリーは、40人の人命を救って「聖犬」とあがめられていた。それが、1814年冬のある夜、山中をさまよっていた旅人が、救いに走ってきた犬をオオカミと見誤って射殺してしまった。ベリーはあまりにも有名だったので、その死にはほかにもいろいろな説が語られている。

ベリーはスイスの首都ベルンの自然博物館に剥製にして保管されており、その胸は、人命救助の手柄による多くのメダルで飾られている。

フランスの愛犬家たちは、ベリーの勇ましく献身的な行為をいつまでも伝えようと、イヌの共同墓地にベリー記念碑を立てた。碑には、助けた人を背に乗せた姿が刻まれている。

こんな話もある。フランスの技師が従者を伴って雪の深い峠を越えていたとき、雪崩にあって埋もれたが、ベリーによって二人とも救われた。技師はこのイヌの献身的な行為に感激し、自分が死んだら、墓石に自分とベリーの姿を一緒に刻んで欲しいと遺言した。

過去数百年間、これらの犬によって救われた人は約2500人に達したといわれている。

金正日総書記は、動物園で各種の犬をすべて飼えば盛観だろうと言い、金日成主席と自分に贈られたさまざまの犬を残らず中央動物園に寄せた。

ヤマイヌ

ジンバブエのムガベ大統領は、1988年11月19日、金正日総書記にヤマイヌを贈った。

ジンバブエではほかの珍獣・珍鳥などと共にヤマイヌが特別に保護

されており、観光客に野生動物の見物はさせるが、贈り物にする前例はなかった。

ところが大統領は慣例を破って、金正日総書記にヤマイヌを贈ったのである。

ヤマイヌはサハラ砂漠南側の平原や山林に棲んでいる。体形がハイエナに似ているのでハイエナイヌとも呼ばれ、アフリカヤマイヌ、猟犬とも呼称されている。体重は16～27kgである。獣類の中で「夫婦仲」が特に良いといわれている。食べ物のことで争うようなことはなく、お互いに塊を分け合って食べたり、一つの塊を両方から仲良く噛んで食べたりする。休んだり、寝たりするときも雌雄がむつまじく並んで横になる。

動物園の雄は、いったん食べた餌を20～30分後に吐いて、「妻」と「子」がいる舎の網の隙間に置いてやっている。

野生のものも、雄は獲物を捕らえて雌と子に持って行く。雌は餌の大きな塊をいったん呑み込んでかなり柔らかくなったものを吐いて子に与える。子はある程度大きくなると、他のヤマイヌたちについて猟に出かける。親は獲物を捕らえても、子が食いに来ると、腹一杯食べさせたあとの残り物を食う。

雌は子を産んだ際、あたりが騒々しいと子を口にくわえて隅の方に移り、それでも騒がしいとまた場所を変え、始終おどおどしている。

ヤマイヌ

ヤマイヌは普通、2～6匹、

多いときは8匹まで子を産み、飼育されているものは16～19匹を産むこともあり、そんなときは乳首が14個しかないので、2～5匹は待たされることになる。「夫婦仲」の良い反面「兄弟仲」はかんばしくない。子イヌたちは餌を争い、強いものだけが生き残る。

ヤマイヌは大胆かつ執拗で、群れをなしているときは、その執拗な攻撃ぶりに、百獣の王と言われるライオンでさえ老いたものは逃げ出すという。

ヤマイヌはレイヨウやシマウマの子も襲って食う。40～60匹の集団をなして生活し、獲物を捕りに行くときは、15匹ほどが一団となって出かける。

その際、数匹を待ち伏せさせておき、残りは一列に並んで年上の雄に従って進む。ボスは獲物を見つけると、200 mほどの距離に忍び寄り、急に全速力で走り出す。残りのヤマイヌも一斉に走ってめざす獲物を追いつめ喉に食いついて倒す。獲物があがいていてもおかまいなく、寄ってたかって肉にくらいつき、15分もすれば、12匹が1匹のレイヨウをすっかりたいらげてしまうという。

ヤマイヌの敵はハイエナとオオカミである。

朝鮮の北と南に行き交ったイヌ

豊山犬(プンサン)

金正日総書記は、金大中(キムデジュン)大統領夫妻に、朝鮮の有名な豊山犬一つがいを贈り、イヌの名は夫妻が付けるようにと伝えた。

大統領夫妻は、朝鮮民族同士の力で国の統一を果たそうという意味で、「ウリ(われら)」「トゥリ(ふたり)」と名付けた。

大統領はその後、豊山犬の宣伝本を出版して総書記に贈った。

南朝鮮人民の大きな関心を集めた豊山犬は、2000年11月、大統領官邸の「青瓦台(チョンワデ)」からソウル大公園に移された。

豊山犬見たさに、ソウルばかりでなく全国各地から、大勢の人がソウル大公園に押し掛けた。

『ハンギョレ』紙など南朝鮮のマスメディアは、贈り物の豊山犬がまだいなかったつい先日までは、閑散としていたソウル大公園が、今は大勢の人で賑わっていると報じた。

豊山犬

見物人たちは、金正日総書記から贈られた豊山犬を見ながら、歴史的な平壌対面の日々を感慨深く振り返り、楽しい統一気分にひたっているという。

「トゥリ」は2001年末、7匹の子を産んだ。このニュース

は豊山犬の人気をいっそう高め、各地の住民は自分たちの土地の動物園にも子イヌを送って欲しいと要望した。こうして済州（チェジュ）、大田（テジョン）などの動物園に豊山犬の子イヌが送られた。

ソウル大公園の管理者は、「今回の贈呈犬の分譲は、南北頂上会談のシンボルという深い意味で『ウリ』『トゥリ』を見たいという国民の要望にそって行われたものである」と語った。

豊山犬を求める人たちが急増して、南朝鮮各地に、豊山犬牧場が作られ、このイヌの案内書も出版されている。

南朝鮮では、豊山犬を世界の名犬として登録しようという運動も起こっている。

南朝鮮の「豊山犬ブーム」は、金正日総書記を祖国統一の救いの星、民族の領袖と仰ぎ慕う南朝鮮人民の純潔な心情の現われである。

豊山犬は両江（リャンガン）道豊山地方（現在の金亨権（キムヒョングォン）郡一帯）で飼われてきた朝鮮イヌである。性は温和、利発で、主人によくなつくが、主人と自分を害そうとする相手には敢然と立ち向かう、強靭な闘志を持つ勇ましいイヌである。

顔は丸形で吻は短く、耳は三角形で直立している。首はむっくりとして短く、胸幅が広く発達している。体毛が白く頑丈な体格に似ず印象は可愛いが、猟犬中の「エース」と言える犬である。

金日成主席は、朝鮮戦争後、豊山犬の純血を維持すべく両江道金亨権郡広徳（クァンドク）里に豊山犬牧場を置き、すべての家庭で豊山犬を純粋に育てるよう措置を講じた。古くから朝鮮人は豊山犬を愛好している。

珍島犬（チンド）

朝鮮中央動物園には、2000 年 6 月、金大中大統領夫妻が、金正日総書記に贈った珍島犬がいる。

全朝鮮民族が統一の熱意に沸いた歴史的な日々、総書記の人柄に魅せられ平壌を訪れた大統領夫妻は深い敬意と信頼の念をこめて、総書記に南朝鮮の有名な珍島犬一つがいを贈った。

ノロやイノシシのような大きな獣も狩り、キジなどを捕って主人のもとにくわえて来もする。

珍島犬

暗褐色の明るく輝く目は普通の大きさで、やや上方に付いている。体長は中程度で、骨格たくましく、力が強くて機敏である。頭骨は幅広くて三角形をなし、耳が立ち、巻き尾である。珍島犬は朝鮮産のイヌである。

贈　呈　動　物

著　者　　張明姫

訳　者　　金政仁　　金竜一

編　集　　崔明順

出　版　　朝鮮民主主義人民共和国
　　　　　外国文出版社

発　行　　チュチェ 99(2010)年 11 月 30 日

ㄱ－0835017